

蜘蛛流大工棟梁横田氏の寺院関係の図面資料について

—横田家大工文書の研究(10)—

Consideration of the temple Plan Data of
drawing by the Yokota Family, the Master Builder of Kumo School

白井裕泰

Hiroyasu Shirai

要約

横田棟梁が描いた寺院関係の図面資料は、絵様図を除いて108点あるが、今回の分析に用いた図面資料は97点である。この図面資料のうち、建物名が不明なものは55点あったが、図面相互の比較や現存遺構との比較によって、34点の図面について建物名を推定することができた。

キーワード：蜘蛛流、大工棟梁、横田氏、寺院、図面資料

目次

- I はじめに
- II 寺院関係の図面資料
- III 建物名が不明な図面資料の検討
- IV おわりに

I はじめに

横田氏は、東北地方において蜘蛛流と呼ばれる大工集団を形成し、江戸後期から明治期にかけて活発な建築生産を行った大工棟梁である。

本研究は、横田家大工文書に関する一連の研究⁽¹⁾の一つであり、ここでは横田家大工文書における図面資料に注目し、その特色を明らかにすることを目的としている。

横田家大工文書における図面資料は、大きく分けると寺院関係、神社関係、住宅関係、絵様関係などがあり、約424点におよぶ膨大な量がある。これまでに住宅関係および絵様関係の図面資料について分析を行ってきたが、ここでは寺院関係の図面資料に限定して分析を行うことにする。

これまで建物名が不明であった資料について、図面資料相互の内容の比較や、現存遺構との比較を通して、建物名を明らかにし、さらには横田氏が描いた図面の性格について考察を試みることにする。

II 寺院関係の図面資料

『横田家文書目録』⁽²⁾における寺院関係の図面資料をすべてあげれば、表1のようになる。ただし図面資料とは、平面図・小屋伏図・立面図・断面図・規矩図・組物図などを指していて、絵様図は別に分析を試みたので、ここでは除外している。また目録から漏れた資料10点を追加している。

表1によると、横田家大工文書には寺院関係の図面資料が108点あり、このうち11点の資料が手元になかった。手元にある97点（このうち建物名のわかるもの42点）の図面のうち、平面図は20点（このうち建物名のわかるもの10点）、小屋伏図は20点（このうち建物名のわかるもの14点）、立断面図38点（このうち建物名のわかるもの12点）、規矩図5点（このうち建物名のわかるもの1点）、組物図13点（このうち建物名のわかるもの4点）、その他鳥瞰図1点（東堂山満福寺）などがある。ただし立面図と断面図は両方が併記されたものが多くあったので、立断面図としてまとめて数えたが、建物全体の立面を強く意識した図面は18点みられた。また立面図には、建物以外にも神輿・前机・

須弥壇などの仏具が含まれている。各図面の割合は、平面図が 20.6%、小屋伏図 20.6%、立断面図 39.2%、規矩図 5%、組物図 13.4%、その他 1% となっていて、平面図・小屋伏図・立断面図が全体の 8 割を占め、平面図・小屋伏図・立面図はほぼ同じ割合であった。

ところで、横田棟梁が図面の名称をどのように表現していたかをみると、平面図はたとえば「大徳山殿堂地差図」「浮金村観音堂地指図」「小幡山護摩堂地図」「大日寺御供所台所地割之正図」のように地差図・地指図・地図・地割之正図、立面図は「(唐棟門)正面真図」「御護摩堂漢容出組作七間割正面図」「御護摩堂漢容出組三間四面作正面ノ図」「二王御門唐容二出崎扇極右妻十分一之図」のように正面真図・正面図・正面ノ図・右妻(十分一)之図、断面図は「大徳山殿堂建地指図右妻拾分壹ノ図」のように建地指図、小屋伏図は「地蔵院客殿初重并二重目小屋組地差図」「地蔵院客殿三重小屋組之図」「小幡山護摩堂二重小屋伏図三重小屋棟木下ノ図」のように小屋組地差図・小屋組之図・小屋伏図とそれぞれ表現していた。また現在描かれているような規矩図はなかったと考えられるが、それに近い図面としては「扇極木負割附」(図 87) や「御本堂二三之作右妻十分一之図」(図 82) などがある。詳細図として「軒廻り断面詳細図」(図 50) や「金剛寺殿堂外陳組物」(図 44) のような組物図や「昌源寺前脚」(図 39)「伊達昌源寺須弥壇正図」(図 41) のような仏具図が描かれている。

横田棟梁が描いた図面を詳細にみると、横田棟梁がどのような意図で図面を作成していたか窺い知ることができ、大きく 3 つの性格に分けることができる。

まず平面を決めるときに、「図面(不詳、未完成)」(図 56) のように単線で規模を表した簡単な平面図から、「御門地図」(図 57) のように柱・建具を表現したものや「二王門平面図」(図 58) のように組物のスケッチを書き込んだものまであり、平面図で決めなければならない規模・構造形式などを考えている様子が窺われる。さらには「平面図 軒廻り断面図」(図 7)、「小幡山護摩堂地図」(図 31)、「表平面図、裏小屋組図」(図 43)、「軒廻り小屋組断面図」(図 84) のように、平面と同時に軒廻りおよび小屋組を考えていることがわかる。この段階で組物、木鼻・虹梁絵様(図 36 小幡山組物を参照) や軒廻り(図 75 小倉観音堂を参照) の詳細スケッチを書きながら建物全体のイメージを固めていったのであろう。

全体の意匠および構造形式が固まった段階で、「大徳山殿堂地指図左之通り」(図 19)、「大徳山殿堂建地指図右妻拾分壹ノ図左之通り」(図 24) や「御護摩堂漢容出組三間四面作正面ノ図」(図 34) のような平面図・断面図・立面図などの意匠図が作成される。その正式な意匠図には「蜘蛛流番匠横田左衛門」の署名と花押が記入されている。

次の段階では、意匠図と木割帳・見積書に基づいた工事金額を施主に披露し、施主が承認すれば工事の請負契約が締結されることになるのである。(なお建築生産の工程については拙稿「大工棟梁横田氏の建築生産の実態について—横田家大工文書の研究(2)—」(共

栄学園短期大学研究紀要第13号所収、pp.71-84、1997年)を参照していただきたい。)そして契約が締結された後は、作業上必要な小屋伏図、規矩図、絵様図、組物図、仏具図などが制作されたのであろう。

このように横田棟梁の図面は、建築全体をまとめていく段階のスケッチ図面と施主に提示する正式な意匠図面と部材の加工・組立に必要な施工図面といった3つの性格をもっていたと考えられよう。

Ⅲ 建物名が不明な図面資料の検討

横田家大工文書における寺院関係の図面資料108点のうち、建物名が不明なものは62点あり、このうち手元にある建物名不明の資料は55点ある。

この建物名不明の資料について、建物名を明らかにするには2つの方法が考えられる。1つは建物名が判明している図面資料との比較によって明らかにする方法と、他の1つは横田棟梁が手掛けた建築のうち現存する遺構との比較によって明らかにする方法がある。さらに2つの方法を同時に適用して図面の建物名を明らかにできればさらに確実性が高くなるといえよう。

また図面の中には実際に建築されなかった建物の図面も含まれている可能性がある。1つは実際に施工された建物の別案を図面化したものであり、他の1つは全く実現されなかった計画案を図面化したものである。この判断は、横田棟梁の全体の建築生産活動を踏まえて、総合的に判断するしか他に方法はない。

建物名が不明な図面資料について、各建物別に図面資料を詳細に検討することにする。

①普賢寺山門(寛延2・1749年)

[門扉正面図](図1)と現存遺構と比較すると、図面の妻虹梁下墓股が遺構では三ツ斗組実肘木であること、妻虹梁上の板墓股の様式が異なること、妻虹梁の絵様が異なることなどが指摘されるが、図面の建築様式は遺構と同時期のものであり、図1は普賢寺山門の図面であるといえよう。また図2「四つ足門」を普賢寺山門としたのは、文書および遺構調査の結果、横田棟梁の建築作品には、普賢寺以外に四脚門がみられなかったからである。

また「薬醫門[立断面図]」(図3)[薬医門小屋組断面図](図4)を普賢寺山門の計画案として推定したのは、図3の鬼板の様式が18世紀中頃の特徴を示していること、横田棟梁の建築生産を通観してみると、18世紀中頃において薬医門は普賢寺以外に計画する機会がなかったと考えられることなどの理由からである。

②普賢寺本堂(宝暦13・1763年)

[本堂立断面図](図5)を宝暦13年に建築された普賢寺本堂と推定した理由は、図5

の妻虹梁・手挟の絵様が18世紀中頃の横田棟梁の絵様と類似していること、この時期に横田棟梁が手掛けた当時の本堂として普賢寺本堂しかなかったことがあげられる。

〔仏殿立断面図〕(図6)を普賢寺仏殿の計画案と推定したのは、本堂と同様に妻虹梁・鬼板の絵様が18世紀中頃の横田棟梁の絵様と類似しているばかりでなく、普賢寺が妙心寺直末の格式ある臨済宗寺院であり、この建物が普賢寺仏殿にふさわしいと考えたからである。

③普賢寺本堂(明治30・1897年)

〔平面図 軒廻り断面図〕(図7)と現存遺構平面図(図109)と比較すると、規模および平面形式がおおよそ類似していることがわかる。特に後側全体に半間幅の仏壇や床の間・違い棚が設けられていることが共通している。相違点としては、図面左側に1間幅の廊下があるが遺構ではないこと、図面左右脇間の桁行は2間であるが遺構では2.5間であること、図面には外縁がないが遺構では付いていることなどがあげられる。

また「初重小屋臺本梁上之図」(図8)「二重小屋組之図」(図9)「三重小屋組之図」(図10)は桁行約10間、梁行約8間の規模であることから、横田棟梁が手掛けた方丈型本堂(図42・63・98・99・100・102・103・107・109)と比較した結果、普賢寺本堂の小屋伏図と考えることができる。

④龍穩院本堂(文政11・1828年)

〔本堂平面図〕(図12)〔本堂平面図〕(図13)は、一部間取りが異なるが、規模および平面形式はおおよそ類似している。特に南側の2間幅の広縁は特徴的である。また東北隅の上段之間は、床の間・違い棚・付書院の座敷飾を備え、書院造の特徴を示し、龍穩院が三春藩主秋田氏の菩提寺であったことから、秋田氏を迎える接客空間としてふさわしい格式をもっている。図12は、向拝の大きさが異なるものの、それ以外は図13とほぼ一致する。図12・13と遺構平面図(図100)と比較すると、東側および北側に幅1.5間の回廊が回っているが、遺構では北側に回廊はなく、東側回廊は15畳の2つの部屋になっている。

⑤八幡観音堂(天保2・1831年)

八幡観音堂は遺構が無く、遺構と比較することができない。ただし「観音御堂地図」(図14)には「唐様出組扇垂木二軒折上ケ格天井也」と記載され、八幡村観音堂に関する契約書である「御堂造営番匠請合一札之事」(文政6年)に「三間四面造り唐様出組向拝附きなり二軒繁(ママ)垂木」とあり、構造形式がほぼ一致することから、図14は八幡観音堂の平面図であると推定した。

⑥浮金観音堂(天保5・1834年)

「観音堂地指図」(図16)〔方三間仏堂の平面図〕(図17)は、「浮金村観音堂地指図」(図15)および遺構と規模および平面形式がほぼ一致する。

また〔本堂正面図〕(図18)は、向拝の水引虹梁、獅子鼻・象鼻、皿斗付三ツ斗や身舎の地長押・内法長押、頭貫・台輪、出組の形式などが遺構と共通している。ただし向拝中備えの様式は大きく異なり、遺構の外縁には高欄がついていない。

⑦地蔵院本堂(天保11・1840年)

地蔵院本堂の平面図とわかっている「大徳山殿堂地指図左之通り」(図19)「大徳山殿堂地指図」(図20)と建物不明の〔本堂平面図〕(図21)と比較してみると、表と裏に8畳間・10畳間・8畳間を配した六間取であること、南側に1間幅の広縁が取り付くなど共通点がみられる。しかし図21では、向拝が付くこと、「内陳」北側に「開山堂」がないことなど相違点もみられるが、他の本堂遺構にこの規模のものが見られないことから判断して、この図は地蔵院本堂の別案として作成されたものと推定した。

⑧興国寺本堂(天保13・1842年)

興国寺本堂は、天保13年に建築された遺構が存在していないので、資料相互の比較によって図面の建物名を明らかにするしか方法はない。興国寺本堂の平面図は残されていなかったが、「興国寺客殿本梁上小屋臺之地図」(図25)によって平面の規模がわかる。平面は桁行約12間、梁行約10間で、横田棟梁の建築作品の中では最大規模の本堂である。「初重小屋之図」(図28)「三重目小屋之図」(図29)は興国寺本堂の規模に相当することから、図28・29を興国寺本堂の小屋伏図と推定した。

⑨治陸寺護摩堂(天保15・1844年)

治陸寺護摩堂関係の図面資料には、すべて建物名が記入されていた。ただし「御護摩堂漢容出組三間四面作正面ノ図」(図34)「御護摩堂漢容出組作七間割正面図」(図35)は、どの寺院の護摩堂か明確でないが、これらの立断面図が方三間仏堂、向拝付、外縁高欄付である治陸寺護摩堂平面図に対応していること、向拝まわりの彫物絵様が天保頃の様式をもっていること、横田棟梁が建築した護摩堂は治陸寺護摩堂だけであることから、図34・35は治陸寺護摩堂の立断面図であると推定した。

⑩昌源寺本堂(弘化4・1847年)

〔前机側面図〕(図38)〔須弥壇正面図〕(図40)は、その意匠から判断して、それぞれ「昌源寺前脚」(図39)「伊達昌源寺須弥壇正図」(図41)のスケッチと考えることができる。

⑪金剛寺本堂(弘化4・1847年)

〔表平面図、裏小屋組断面図〕(図43)は、平面図が「金屋村産湯宝山金剛寺客殿地図」(図42)と一致するので、金剛寺本堂の図面と考えられる。また「正面真図」(図47)は唐棟門上部の側面図であるが、一連の金剛寺図面資料と一緒に保存されていたので、金剛寺唐棟門の図面と推定した。

⑫仁井町観音堂(嘉永4・1851年)

「御本堂二間四面」(図48)を仁井町観音堂の平面図と推定したのは、「仁井町御本堂半

唐様出組式間四面造り右妻拾分壹図」(図 49) の二間四面の平面形式が一致しているからである。

また「軒廻り断面詳細図・組物図」(図 50) を仁井町観音堂の詳細図としたのは、この図面の一部に平面図が描かれていて、この平面形式が二間四面であるからである。

⑬飯豊愛宕堂(嘉永 5・1852 年)

愛宕堂の図面には、すべてに建物名が記入されていた。

⑭満福寺鐘楼(万延 2・1861 年)

「鐘楼堂漢陽三ツ斗作右妻十分一ノ図」(図 53) [鐘楼立断面図](図 54) は、現存遺構とおおよそ類似している。現存遺構は「方一間、入母屋造、銅板葺、袴腰付、組物二手先尾垂木付、腰組二手先、軒二軒扇垂木、繁垂木、妻飾懸魚」であり、図 53 とは組物および腰組や一軒の形式が異なり、図 54 とは妻飾の冢叉首が異なるが、横田棟梁が手がけた袴腰付の鐘楼は満福寺鐘楼以外にないことから、図 53・54 は満福寺鐘楼の図面と推定した。

⑮満福寺二王門(計画案)

東堂山満福寺には、「東堂山境内宮繕新図」(図 55) にみられるように、惣門、殿堂、宝庫、庫裏、茶屋、二王門、鐘楼、毘沙門堂、田村堂、本堂など伽藍が整備されている。二王門は 18 世紀中頃のもので現在残っている。横田家文書には、二王門関係の図面が 7 点(図 56-62) みられるが、横田棟梁が手がけた寺院の中で、八脚門形式の二王門が残っているのは満福寺のみである。横田棟梁が満福寺鐘楼を手がけたとき、老朽化した二王門の建て替えを施主に提案したのではないか。これらの図面は新二王門の計画案として作成されたのではないだろうか。

⑯大日寺本堂(文久元・1861 年)

大日寺関係の図面にはすべてに建物名が記入されていた。ただし文久元年に建築された本堂は現存しない。

⑰剛叟寺本堂(明治 22・1889 年)

剛叟寺本堂関係の図面にはすべてに建物名が記入されていた。現存遺構では向拝が付いているが、「剛叟寺殿堂拾分壹之図」(図 72) には向拝がみられない。

⑱小倉観音堂(建築年代不明)

「小倉観音堂」(図 75) には、海老虹梁および向拝の縋破風の納まりが描かれている。

なお図 76-97 の 21 点の図面については建物名を明らかにすることができなかった。ただし図 86-89 の規矩図は、特定の建物のために描かれたのではなく、図中に「口傳ニテ教ス之ヲ」とあるように横田棟梁の覚書のようなものと考えられる。また図 90-92 も覚書のようなものであろう。

以上の考察によって建物名が明らかになった図面資料を加えて、建物別に整理したもの

が表2である。

IV おわりに

これまでの考察の結果をまとめると以下のように要約される。

- 1) 横田棟梁は、図面の名称として、平面図は「地差（指）図」「地図」「地割之正図」、立面図は「正面真図」「正面図」「右妻之図」、断面図は「建地指図」、小屋伏図は「小屋組地差図」「小屋組之図」「小屋伏図」とそれぞれ表現していた。
- 2) 横田棟梁の描いた図面は、設計のためのスケッチ図、契約に用いた正式な意匠図、施工上必要な施工図などに分類することができる。
- 3) 寺院関係の図面資料で、手元にある97点の図面のうち、建物名が不明なものが55点あったが、図面相互の比較や、現存遺構との比較を通して、34点について建物名を明らかにすることができた。

注記

- (1) 拙稿「横田家大工文書の研究（1）―（9）」共栄学園短期大学研究紀要, 第11・13-20号, 1995・1997-2004年3月
- (2) 滝根町教育委員会『滝根町古文書調査報告4』（滝根町史資料集第10集）1986年
滝根町教育委員会『滝根町古文書調査報告6』（滝根町史資料集第14集）1988年

表 1 - 1 寺院関係の図面資料

番号	目録番号	図面名称	作成年代	種類	員数	備考
1	6	[神又剛叟寺神輿詳細図]	寛政4・12	下書	1枚	
2	7	剛叟寺殿堂拾分壹之図	(明治)	原本	1枚	
3	17	地藏院客殿初重并二重目小屋組地差図		原本	1枚	
4	18	大徳山殿堂地差図		原本	1枚	
5	19	大徳山殿堂建地指図右妻拾分壹/図左之通り		原本	1枚	
6	20	地藏院客殿三重小屋組之図		原本	1枚	
7	21	大徳山殿堂地指図左之通り		原本	1枚	
8	42	扇垂木大略図伊達舟生村舟生山正源寺		原本	1枚	
9	43	覚 船生山之図		原本	1枚	欠
10	46	昌源寺前脚		原本	1枚	
11	47	伊達昌源寺須弥壇正図		原本	1枚	
12	64	[八幡村観音堂平面図]		控書	1枚	欠
13	69	浮金村観音堂地指図		下書	1枚	
14	70	観音堂地指図		原本	1枚	
15	76	興国寺客殿本梁上小屋台之地図		原本	1枚	
16	77	興国寺殿堂小屋組五六重之図并二同所棟木之図		原本	1枚	
17	80	小幡山御護摩堂地指図		原本	1枚	
18	81	小幡山組物		原本	1枚	
19	82	小幡山護摩堂二重小屋伏図三重小屋棟木ノ図		原本	1枚	
20	83	小幡山護摩堂地図		原本	1枚	
21	84	小幡山護摩堂初重小屋伏図		原本	1枚	
22	90	金屋村産湯宝山金剛寺客殿地図			1枚	
23	91	金剛寺殿堂外陳組物		原本	1枚	
24	92	産湯宝山金剛寺殿堂		原本	1枚	
25	93	正面真図		原本	1枚	
26	94	産湯宝山客殿		原本	1枚	
27	108	仁井町御本堂半唐様出組式間四面造り右妻拾分壹図		原本	1枚	
28	113	大日寺軒廻り小屋組之図但し御供所之方也		原本	1枚	
29	114	湯殿山大日寺客殿之地図		原本	1枚	
30	115	大日寺御供所台所地割之正図		控書	1枚	
31	116	大日寺客殿初重小屋之図但し梁下むね木等之場も此図二頭ス		原本	1枚	
32	119	大日寺御供所梁下取合ノ下テ手板		原本	1枚	
33	120	大日寺小屋組小屋小屋本棟受ノ図		原本	1枚	
34	121	初重小屋之図		原本	1枚	
35	122	大日寺客殿軒小屋組之図		原本	1枚	
36	124	[本堂平面図]		原本	1枚	
37	125	大日寺御供所小屋組初重ヨリ九重迄之図但し妻之方也		原本	1枚	
38	127	大日寺御供所本梁上小屋短柱ノ下テ手板但し初重ヨリ九重迄也		原本	1枚	
39	178	小倉観音堂		原本	1枚	
40	182	飯島山須弥壇横田氏隠遁者六十七才図之		原本	1枚	
41	189	愛宕堂二重小屋組扱首立之手板		原本	1枚	
42	190	愛宕堂小屋初重		原本	1枚	
建物不明の資料						
43	495	一切経輪藏之繪図	天明2・9	版本	1冊	
44	497	あさかお立返り四尺間	文化5・9	原本	1枚	
45	498	扇極木負割附	文化6・2	原本	1枚	
46	499	扇垂木木負割附	文化6・2	原本	1枚	
47	500	八角扇垂木木負割附	文化6	原本	1枚	
48	501	和様造り不動堂十分一之図	文化11	原本	1枚	
49	502	[建具おさまり詳細図]	天保2・2	原本	1枚	欠
50	505	初重小屋台本梁上之図		原本	1枚	
51	506	二重小屋組之図		原本	1枚	
52	507	三重小屋組之図		原本	1枚	
53	521	御護摩堂漢容出組作七間割正面図		原本	1枚	
54	522	御護摩堂漢容出組三間四面作正面ノ図		原本	1枚	

表1-2 寺院関係の図面資料

番号	目録番号	図面名称	作成年代	種類	員数	備考
55	524	日本本山三間四面堂		原本	1枚	欠
56	532	[立面図] (唐破風造の厨子)		原本	1枚	欠
57	540	[立面図下書き]		下書	1枚	
58	544	[薬医門立断面図]		原本	1枚	
59	548	二王門唐容二出崎扇垂木正面十分一之図		原本	1枚	
60	549	唐容二出崎隅組之図		下書	1枚	
61	550	[図面] (不詳、未完成)		原本	1枚	
62	551	二王御門唐容二出崎扇極右妻十分一之図		原本	1枚	
63	553	[平面図軒廻り断面図]		原本	1枚	
64	556	[山門立断面図]		原本	1枚	
65	557	軒廻り二重垂木小節もの仕立ノ図		原本	1枚	
66	563	[門扉正面図]		原本	1枚	
67	565	三重目小屋之図		原本	1枚	
68	570	四つ足門			1枚	
69	573	[軒廻り小屋組断面図]		下書	1枚	
70	603	[本堂立断面図]		原本	1枚	
71	616	[本堂平面図]			1枚	
72	618	[二王門平面図] (組物のスケッチ有)		下書	1枚	
73	619	[本堂正面図] (朱にて軒廻り断面図)		原本	1枚	
74	622	[仏堂立断面図]		原本	1枚	
75	623	御本堂二三之作右妻十分一之図		原本	1枚	
76	624	[仏殿立断面図]		原本	1枚	
77	625	[鐘楼堂立断面図]			1枚	
78	628	[丸桁規矩図] (ねじ組)			1枚	欠
79	629	観音御堂地図唐様出組扇垂木二軒折上ケ格天井也			1枚	
80	630	[出組断面図]		原本	1枚	
81	651	[軒廻り断面詳細図、組物図]		原本	1枚	
82	655	初重二重小屋組之図		原本	1枚	
83	665	御門地図		原本	1枚	
84	673	[出三ツ斗詳細図]		下書	1枚	
85	686	[方三間仏堂の平面図]			1枚	
86	691	[表：平面図、裏：小屋組断面図]		原本	1枚	
87	692	御本堂二間四面		原本	1枚	
88	703	扇極かぐの取様		原本	1枚	欠
89	713	二尺二寸四分腰組之図		原本	1枚	
90	718	外陳角臚指臂木之図		原本	1枚	欠
91	729	[本堂平面図]				
92	751	[楼門部分立面図]		下書	1枚	
93	759	[軒廻り小屋組平面図]		下書	1枚	
94	767	[前机側面図]		原本	1枚	
95	768	[須弥壇正面図]			1枚	欠
96	879	仁井町観音堂絵図		下書	1枚	欠
97	895	殿堂西之妻三拾分巻之図		控書	1枚	欠
98	896	[扇たる木絵図面]		下書	1枚	
目録にない資料						
99		[薬医門小屋組断面図]			1枚	
100		興国寺法堂小屋組初重之図			1枚	
101		東堂山境内営繕新図			1枚	
102		鐘楼堂漢陽三ツ斗作右妻十分一ノ図			1枚	
103		小屋図			1枚	
104		[出組平面図]			1枚	
105		[二手先組物平面図]			1枚	
106		[三手先組物平面図]			1枚	
107		[出三ツ斗立面図]			1枚	
108		[出組断面図]			1枚	

表 2 - 1 建物別の図面資料

番号	目録番号	図面名称	年代	種類	備考
普賢寺山門			寛延 2		有
1	563	[門扉正面図]		立断面図	
2	570	四つ足門		断面図	
3	544	[薬醫門立断面図]		立断面図	推定
4		[薬医門小屋組断面図]		断面図	推定
普賢寺本堂			明治 30		有
5	603	[本堂立断面図]		立断面図	推定
6	624	[仏殿立断面図]		立断面図	
7	553	[平面図軒廻り断面図]		平断面図	
8	505	初重小屋台本梁上之図		小屋伏図	推定
9	506	二重小屋組之図		小屋伏図	推定
10	507	三重小屋組之図		小屋伏図	
龍穩院一切経輪藏			天明 2		無
11	495	一切経輪藏之繪図	天明 2・9	立断面図	
龍穩院本堂			文政 11		有
12	124	[本堂平面図]		平面図	
13	729	[本堂平面図]		平面図	
八幡観音堂			天保 2		無
	64	[八幡村観音堂平面図]		平面図	欠
14	629	観音御堂地唐様出組扇垂木二軒折上ケ格天井也		平面図	
浮金観音堂			天保 5		有
15	69	浮金村観音堂地指図		平面図	
16	70	観音堂地指図		平面図	
17	686	[方三間仏堂の平面図]		平面図	
18	619	[本堂正面図] (朱にて軒廻り断面図)		平面図	
地藏院本堂			天保 11		有
19	18	大徳山殿堂地差図		平面図	
20	21	大徳山殿堂地指図左之通り		平面図	
21	616	[本堂平面図]		平面図	推定
22	17	地藏院客殿初重并二重目小屋組地差図		小屋伏図	
23	20	地藏院客殿三重小屋組之図		小屋伏図	
24	19	大徳山殿堂建地指図右妻拾分壹ノ図左之通り		断面図	
興国寺本堂			天保 13		無
25	76	興国寺客殿本梁上小屋台之地図		小屋伏図	
26		興国寺法堂小屋組初重之図		小屋伏図	
27	77	興国寺殿堂小屋組五六重之図并二同所棟木之図		小屋伏図	
28	121	初重小屋之図		小屋伏図	推定
29	565	三重目小屋之図		小屋伏図	推定
治陸寺護摩堂			天保		無
30	80	小幡山御護摩堂地指図		平面図	
31	83	小幡山護摩堂地指図		平面図	
32	84	小幡山護摩堂初重小屋伏図		小屋伏図	
33	82	小幡山護摩堂二重小屋伏図三重小屋棟木ノ図		小屋伏図	
34	522	御護摩堂漢容出組三間四面作正面ノ図		立面図	
35	521	御護摩堂漢容出組作七間割正面図		立面図	
36	81	小幡山組物		組物図	
昌源寺本堂			弘化 4		有
37	42	扇垂木大略図伊達舟生村舟生山正源寺		規矩図	
38	767	[前机側面図]		立面図	
39	46	昌源寺前脚		立面図	
40	768	[須弥壇正面図]		立面図	
41	47	伊達昌源寺須弥壇正図		立面図	
43		覚 船生山之図		不明	欠

表2-2 建物別の図面資料

番号	目録番号	図面名称	年代	種類	備考
金剛寺本堂			弘化4		無
42	90	金屋村産湯宝山金剛寺客殿地図		平面図	
43	691	[表：平面図、裏：小屋組断面図]		平断面図	推定
44	91	金剛寺殿堂外陳組物		組物図	
45	94	産湯宝山客殿		組物図	
46	92	産湯宝山金剛寺殿堂		組物図	
47	93	正面真図（唐棟門）		立面図	推定
仁井町観音堂			嘉永4		無
48	692	御本堂二間四面		平面図	推定
	879	仁井町観音堂絵図		不明	欠
49	108	仁井町御本堂半唐様出組式間四面造り右妻拾分壹図		立断面図	
50	651	[軒廻り断面詳細図、組物図]		断面詳細図	
飯豊愛宕堂			嘉永5		有
51	190	愛宕堂小屋初重		小屋伏図	
52	189	愛宕堂二重小屋組扱首立之手板		小屋伏図	
満福寺鐘楼			万延2		有
53		鐘楼堂漢陽三ツ斗作右妻十分一ノ図		立面図	
54	625	[鐘楼堂立断面図]		立断面図	
55		東堂山境内営繕新図		鳥瞰図	
満福寺二王門				計画案	推定
56	550	[図面]（不詳、未完成）		平面図	
57	665	御門地図		平面図	
58	618	[二王門平面図]（組物のスケッチ有）		平面図	
59	548	二王門唐容二出崎扇垂木正面十分一之図		立面図	
60	551	二王御門唐容二出崎扇極右妻十分一之図		立面図	
61	556	[山門立断面図]		立断面図	
62	549	唐容二出崎隅組之図		組物図	
大日寺本堂			文久元		無
63	114	湯殿山大日寺客殿之地図		平面図	
64	116	大日寺客殿初重小屋之図但し梁下むね木等之場も此図二顯ス		小屋伏図	
65	120	大日寺小屋組小屋小屋本棟受ノ図		小屋伏図	
66	122	大日寺客殿軒小屋組之図		断面詳細図	
67	115	大日寺御供所台所地割之正図		平面図	
68	127	大日寺御供所本梁上小屋短柱ノ下テ手板但し初重ヨリ四重迄也		小屋伏図	
69	119	大日寺御供所梁下取合ノ下テ手板		小屋伏図	
70	113	大日寺軒廻り小屋組之図但し御供所之方也		断面詳細図	
71	125	大日寺御供所小屋組初重ヨリ九重迄之図但し妻之方也		断面詳細図	
剛叟寺本堂			明治22		有
72	7	剛叟寺殿堂拾分壹之図	(明治)	立面図	
73	182	飯薦山須弥壇横田氏隠遁者六十七才図之		立面図	
74	6	[神又剛叟寺神輿詳細図]	寛政4・12	立面図	
小倉観音堂			不明		不明
75	178	小倉観音堂		断面詳細図	

表 2 - 3 建物不明の図面資料

番号	目録番号	図面名称	年代	種類	備考
76		小屋図		小屋伏図	
77	655	初重二重小屋組之図		小屋伏図	
78	501	和様造り不動堂十分一之図	文化 11	立断面図	
79	622	[仏堂立断面図]		立断面図	
80	751	[楼門部分立面図]		立面詳細図	
81	540	[立面図下書き]		立面詳細図	
	532	[立面図] (唐破風造の厨子)		立面図	欠
	895	殿堂西之妻三拾分老之図		控書	欠
82	623	御本堂二三之作右妻十分一之図		立断面詳細図	
83	557	軒廻り二重垂木小節もの仕立ノ図		断面詳細図	
84	759	[軒廻り小屋組平面図]		断面詳細図	
85	573	[軒廻り小屋組断面図]		断面詳細図	
86	497	あさかお立返り四尺間	文化 5・9	規矩図	
87	498	扇極木負割附	文化 6・2	規矩図	
88	499	扇垂木木負割附	文化 6・2	規矩図	
89	500	八角扇垂木木負割附	文化 6	規矩図	
	628	[丸桁規矩図] (ねじ組)		規矩図	欠
	703	扇極かくの取様		規矩図	欠
	896	[扇たる木絵図面]		不明	欠
90		(出組平面図)		組物図	
91		(二手先組物平面図)		組物図	
92		(三手先組物平面図)		組物図	
93		(出三ツ斗立面図)		組物図	
94	673	[出三ツ斗詳細図]		組物図	
95		(出組断面図)		組物図	
96	630	[出組断面図]		組物図	
97	713	二尺二寸四分腰組之図		組物図	
	718	外陳角臚指臂木之図		組物図	欠
	502	[建具おさまり詳細図]	天保 2	詳細図	欠
	524	日本本山三間四面堂		不明	欠

【普賢寺山門（寛延2・1749年）】

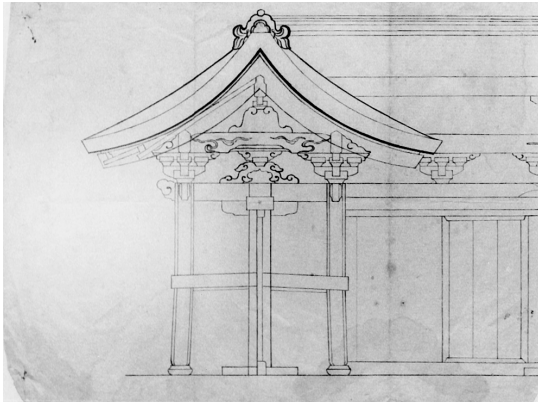


図1 [門扉正面図]

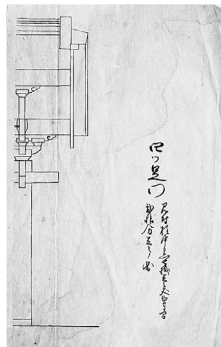


図2 四つ足門

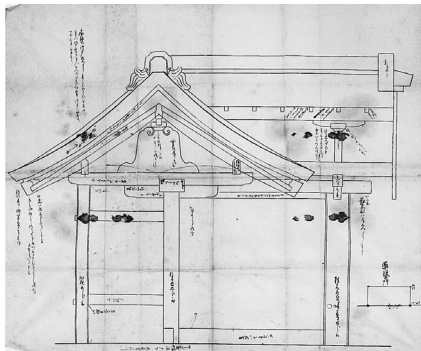


図3 薬醫門 [立断面図]

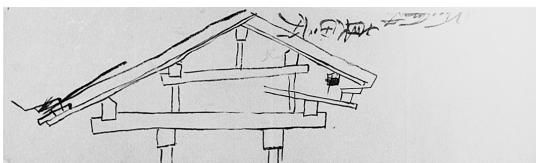


図4 [薬醫門小屋組断面図]

【普賢寺本堂（宝暦13・1763年）】

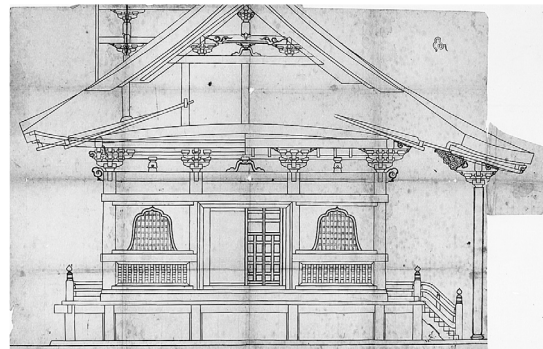


図5 [本堂立断面図]

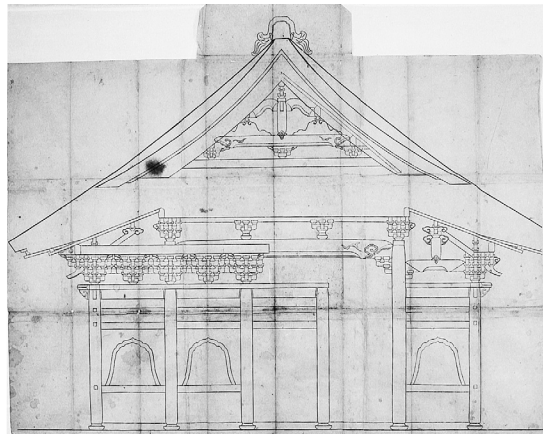


図6 [仏殿立断面図]

【普賢寺本堂（明治30・1897年）】

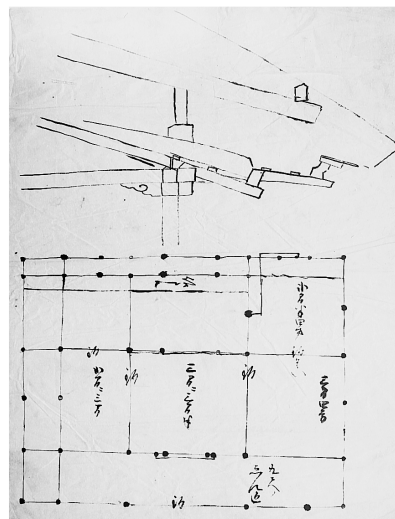


図7 [平面図 軒廻り断面図]

【龍穩院一切経輪蔵（天明2・1782年）】

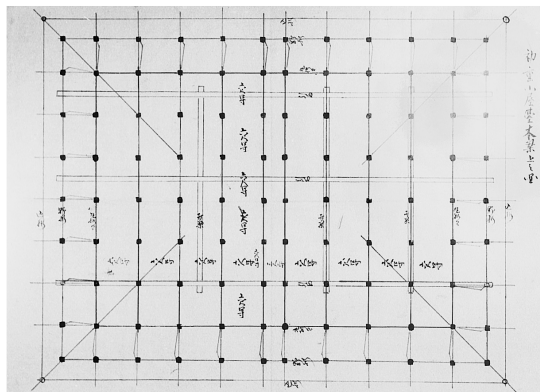


図8 初重小屋臺本梁上之図

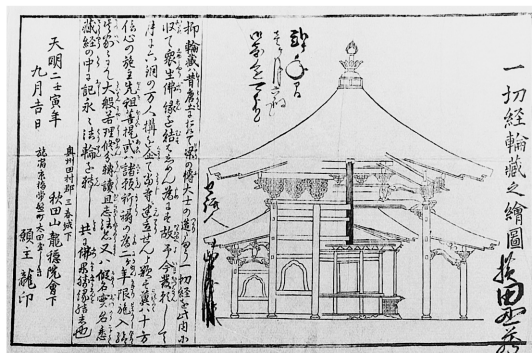


図11 一切経輪蔵之絵図

【龍穩院本堂（文政11・1828年）】

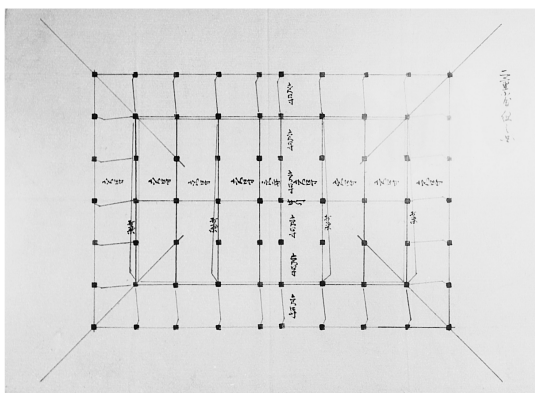


図9 二重小屋組之図

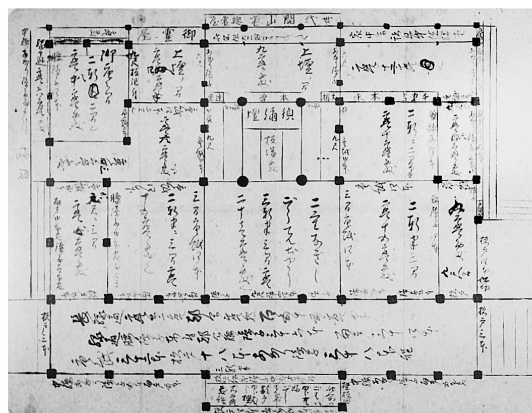


図12 [本堂平面図]

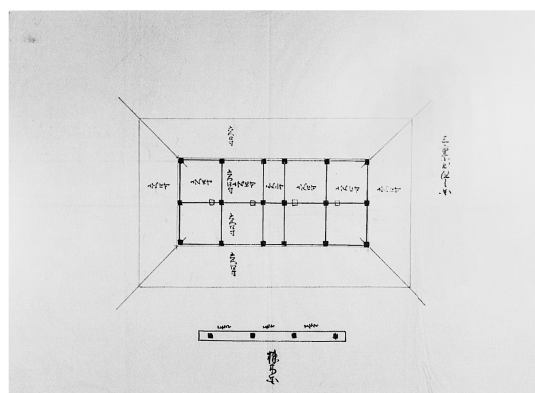


図10 三重小屋組之図

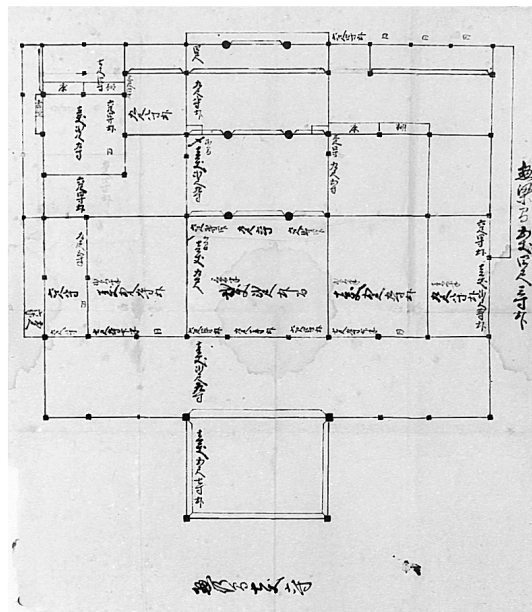


図13 [本堂平面図]

【八幡観音堂（天保2・1831年）】

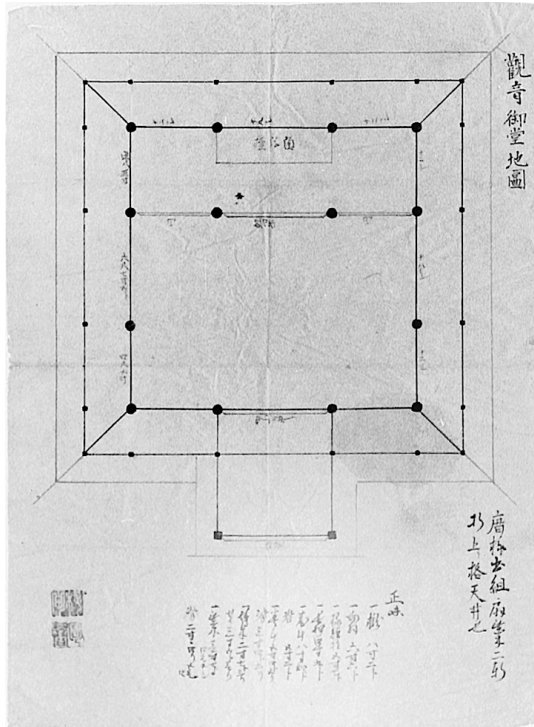


図14 観音御堂地図

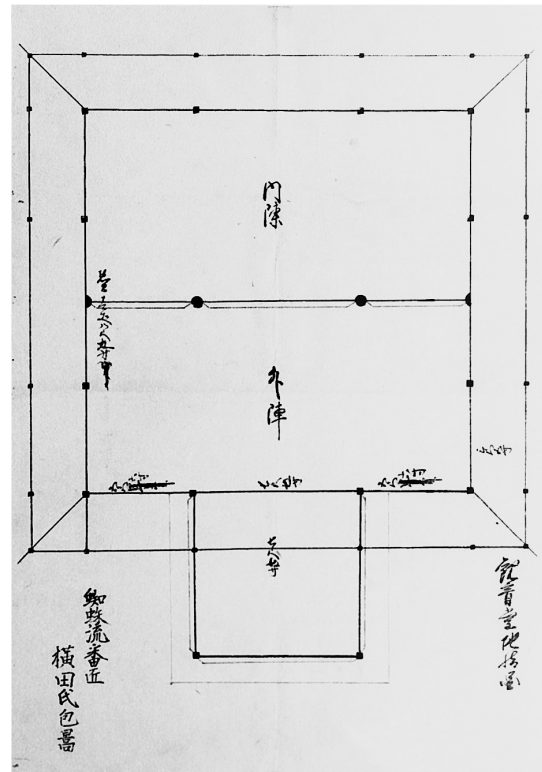


図16 観音堂地指図

【浮金観音堂（天保5・1834年）】

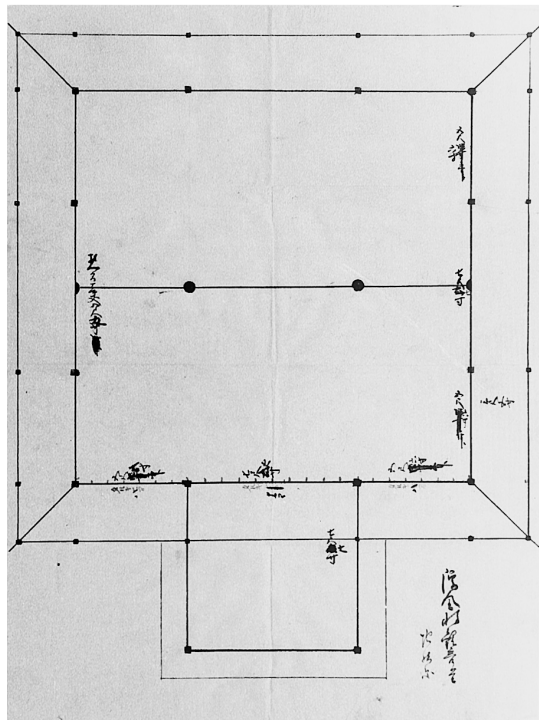


図15 浮金村観音堂地指図

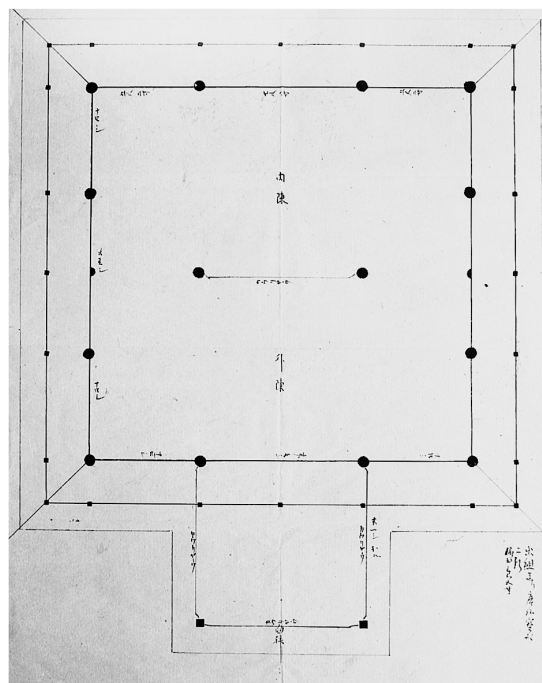


図17 [方三間仏堂の平面図]

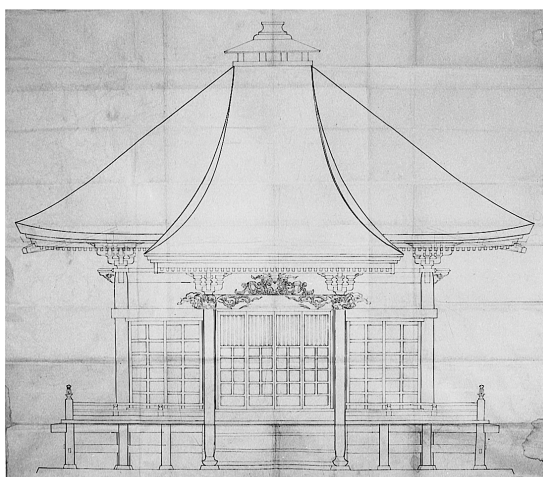


図18 [本堂正面図]

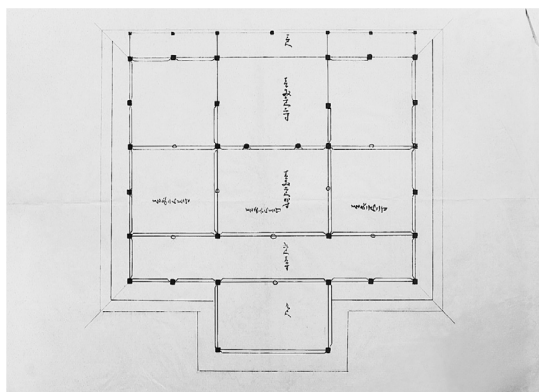


図21 [本堂平面図]

【地藏院本堂（天保11・1840年）】

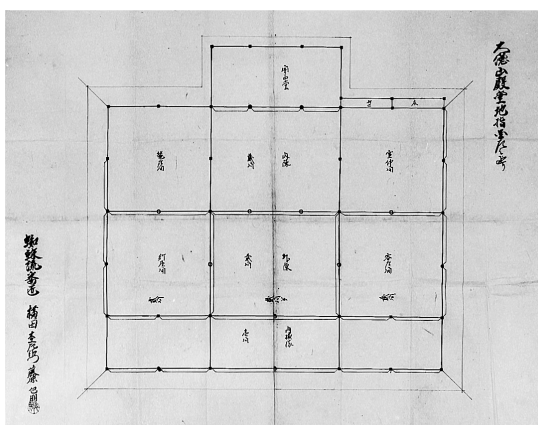


図19 大徳山殿堂地指図左之通り

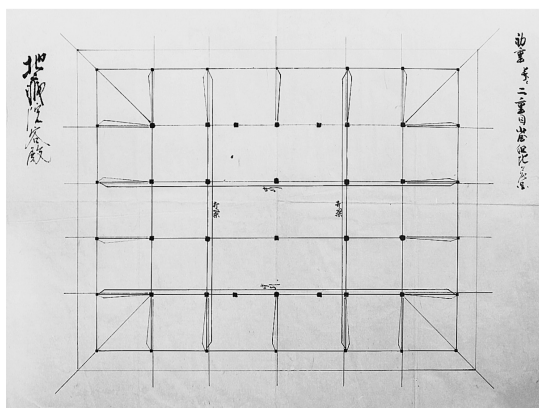


図22 地蔵院客殿
初重并二重目小屋組地差図

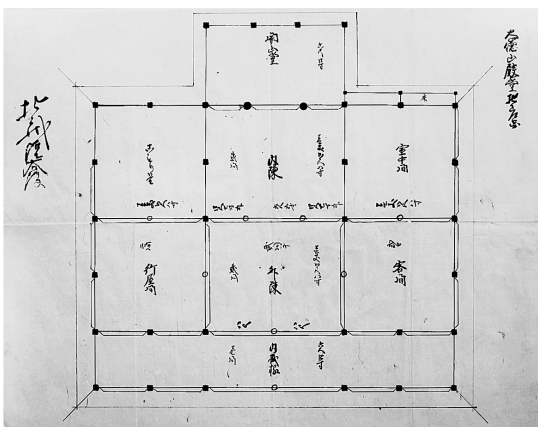


図20 大徳山殿堂地指図

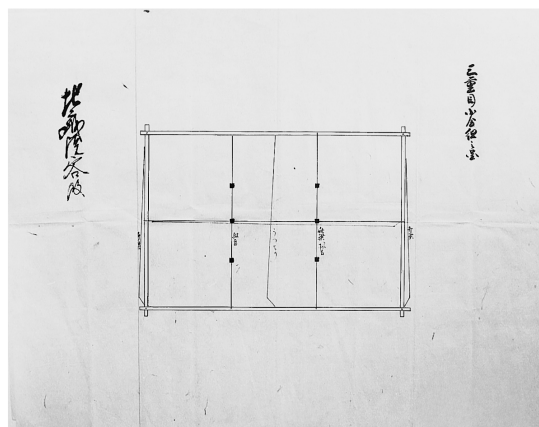


図23 地蔵院客殿 三重目小屋組之図

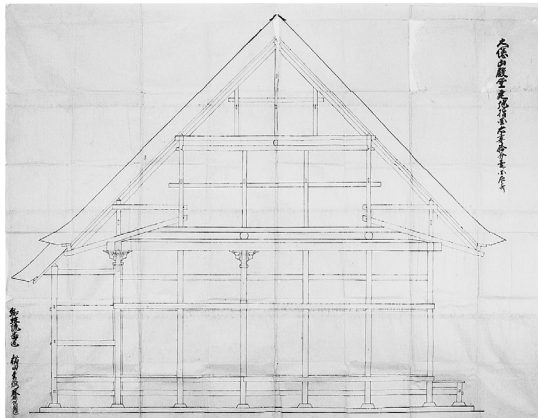


図24 大徳山殿堂

建地指図右妻拾分壹ノ図左之通り

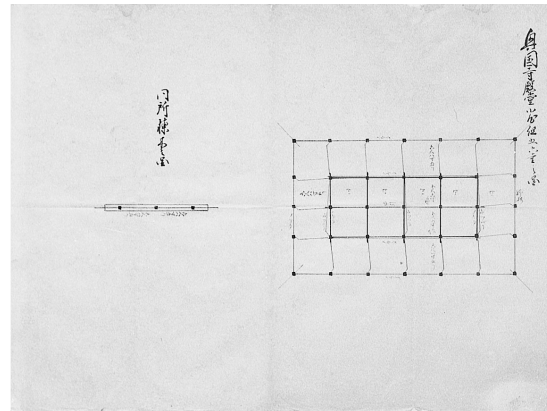


図27 興国寺殿堂小屋組五六重之図

【興国寺本堂（天保13・1842年）】

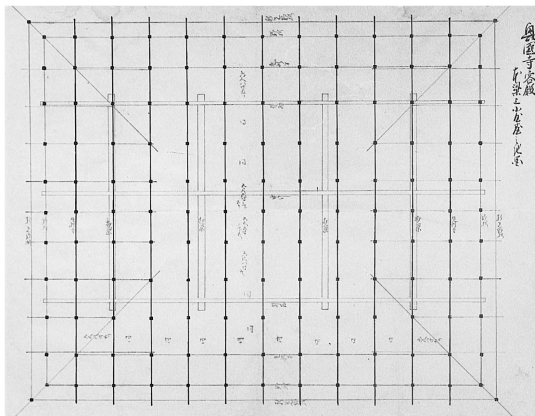


図25 興国寺客殿本梁上小屋臺之地図

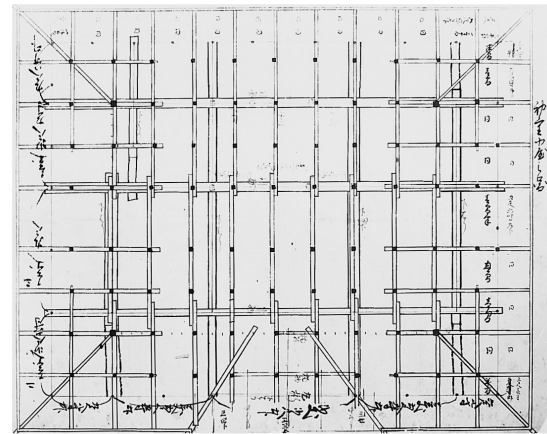


図28 初重小屋之図

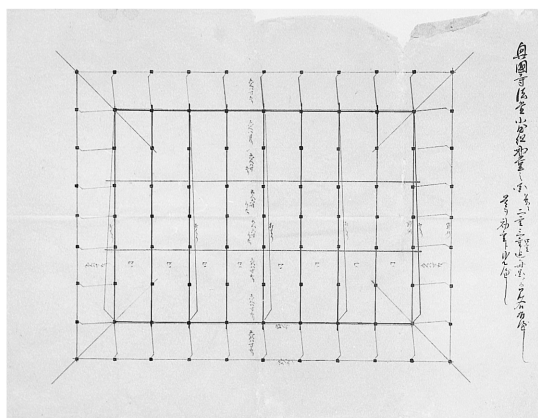


図26 興国寺法堂小屋組初重之図

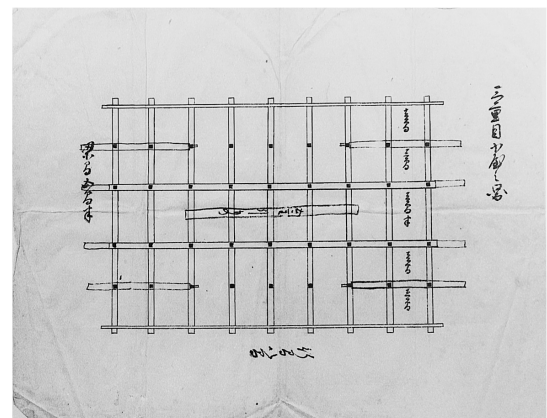


図29 三重目小屋之図

【治陸寺護摩堂（天保15・1844年）】

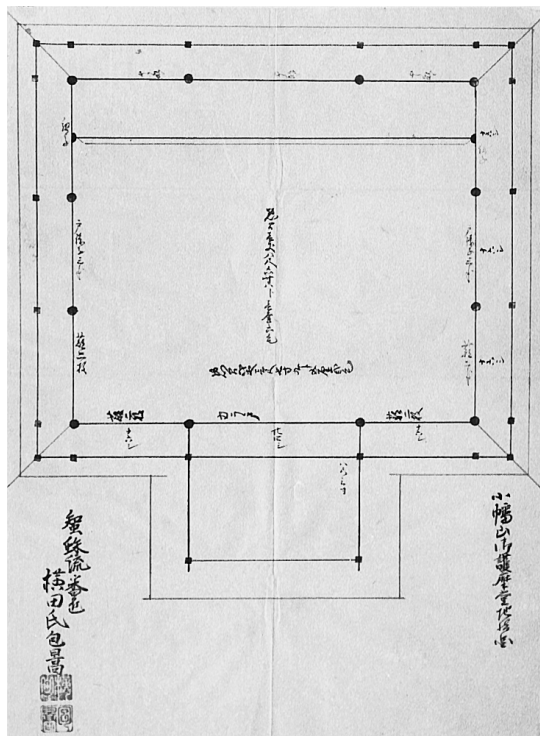


図30 小幡山御護摩堂地指図

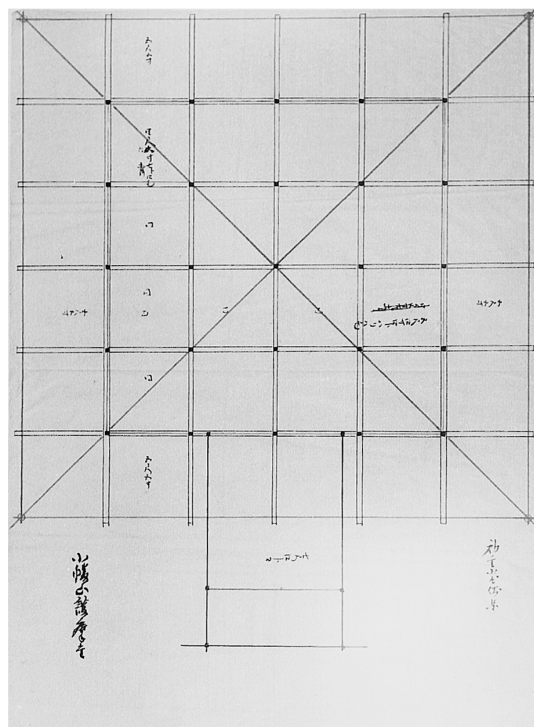


図32 小幡山護摩堂 初重小屋伏図

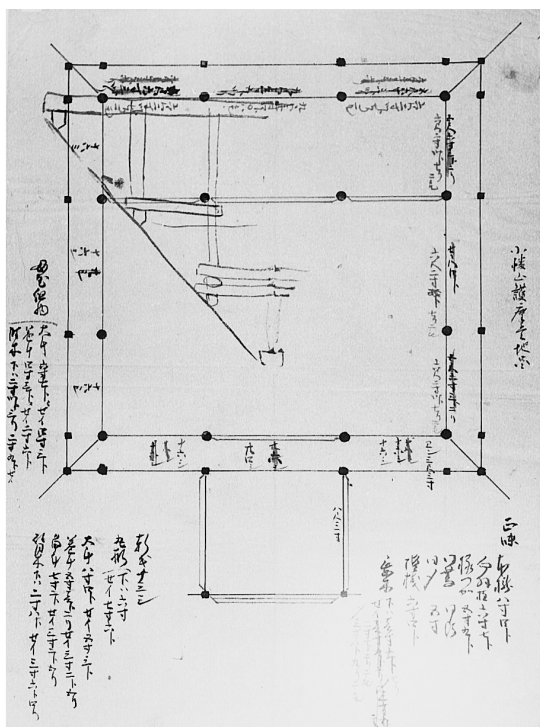


図31 小幡山護摩堂地図

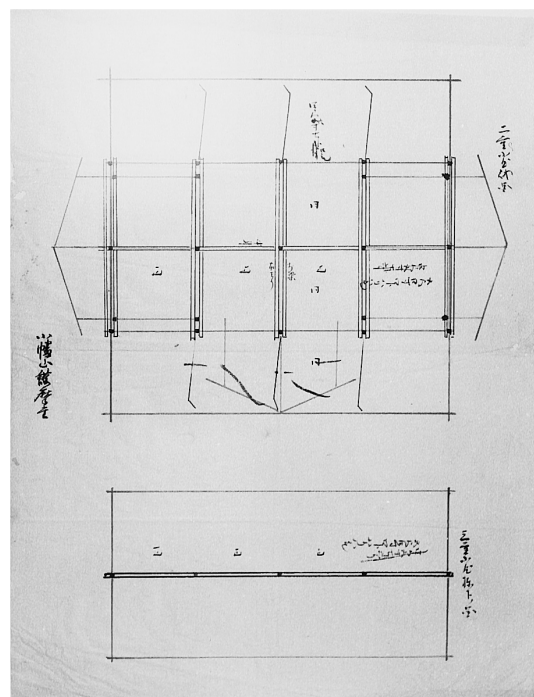


図33 小幡山護摩堂
二重小屋伏図 三重小屋棟下ノ図

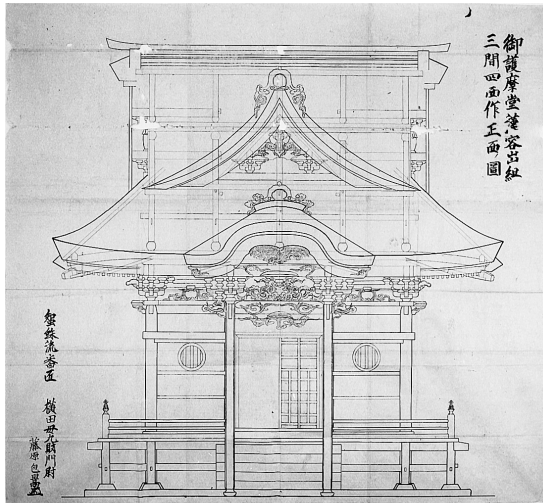


図34 御護摩堂
漢容出組三間四面作正面ノ図

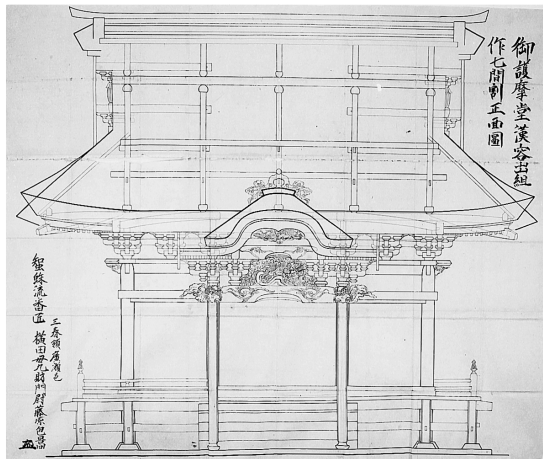


図35 御護摩堂漢容出組作七間割正面図

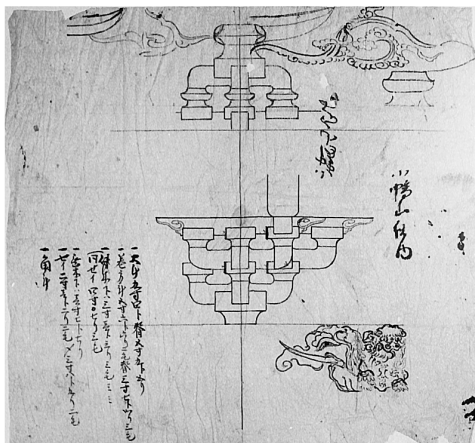


図36 小幡山 組物

【昌源寺本堂 (弘化4・1847年)】

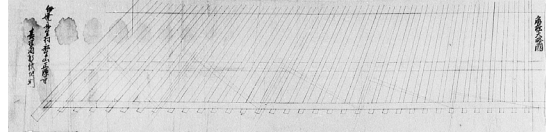


図37 扇垂木大略

伊達舟生村舟生山正源寺表半間軒伏地割

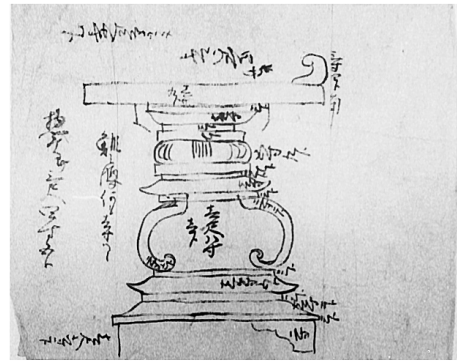


図38 [前机側面図]

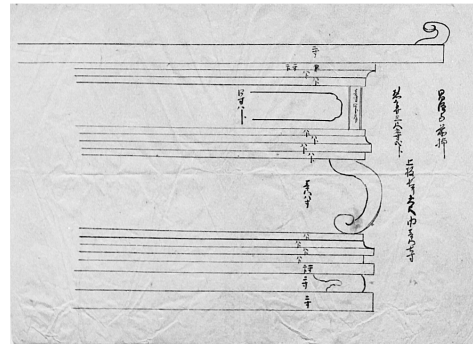


図39 昌源寺前脚

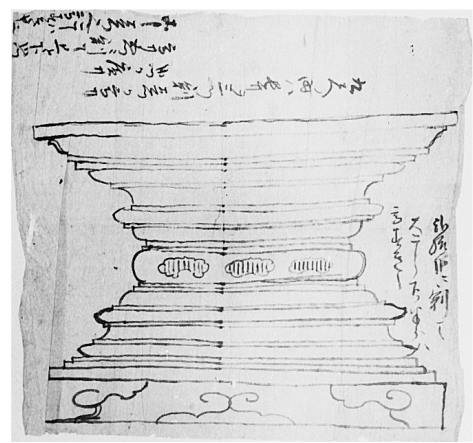


図40 [須弥壇正面図]

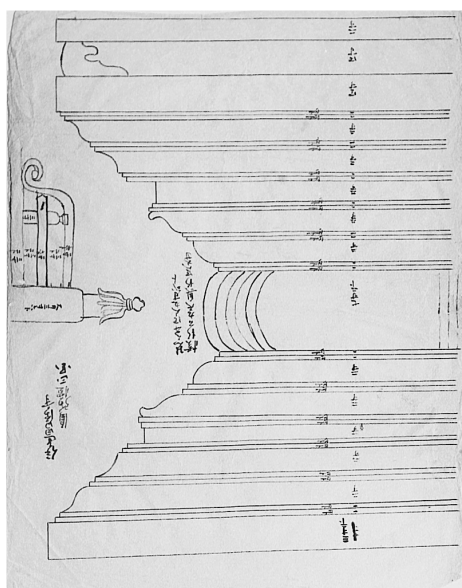


図41 伊達昌源寺須彌壇正図

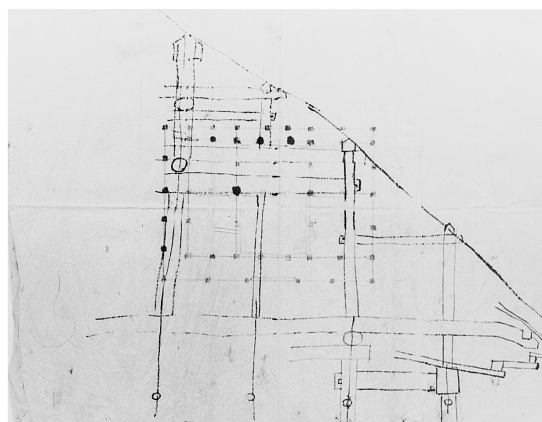


図43-2 [裏 小屋組断面図]

【金剛寺本堂 (弘化4・1847年)】

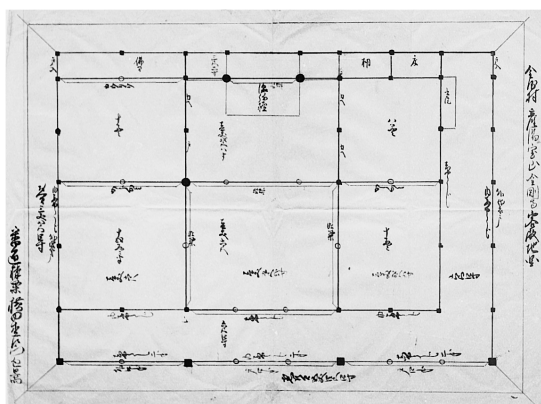


図42 金屋村産湯宝山金剛寺客殿地図

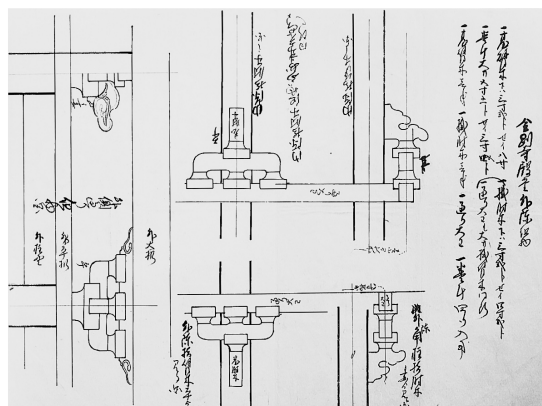


図44 金剛寺殿堂外陳組物

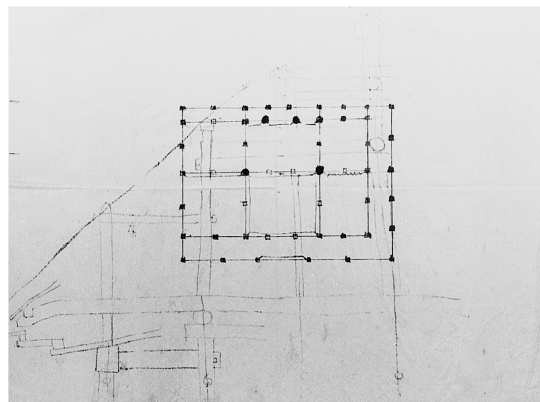


図43-1 [表 平面図]

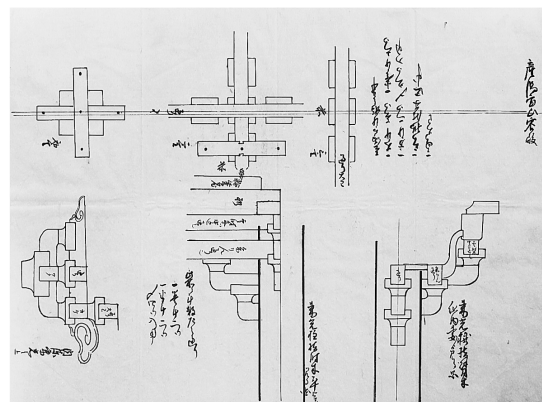


図45 産湯宝山客殿

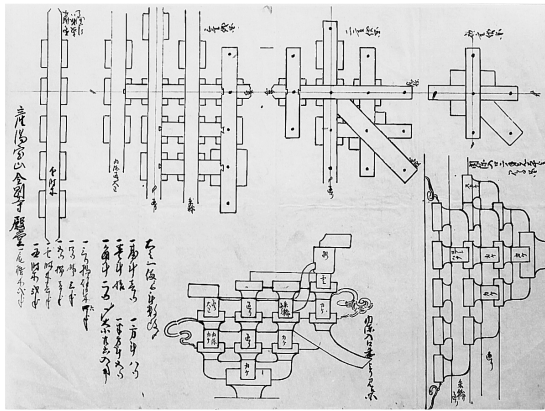


図46 産湯宝山金剛寺殿堂

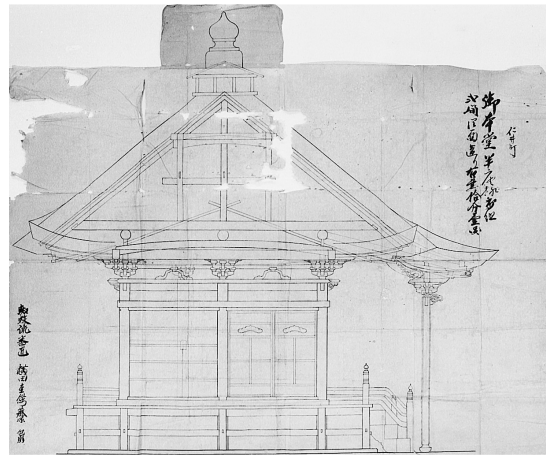


図49 仁井町御本堂

半唐様出組式間四面造り右妻拾分壹図

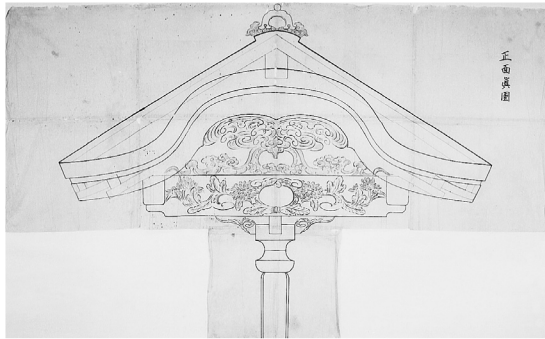


図47 正面真図

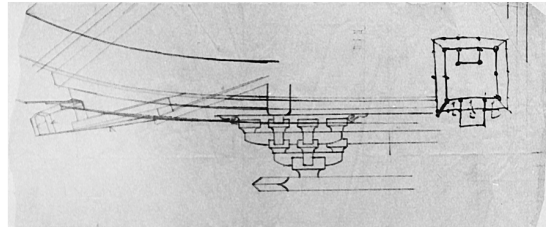


図50 [軒廻り断面詳細図・組物図]

【仁井町観音堂（嘉永4・1851年）】

【飯豊愛宕堂（嘉永5・1852年）】

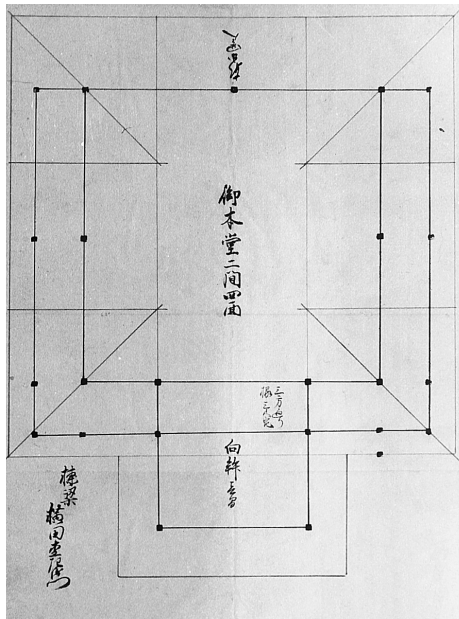


図48 御本堂二間四面

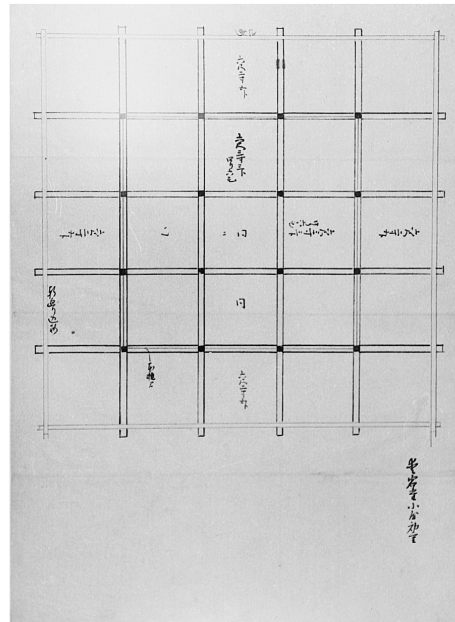


図51 愛宕堂小屋初重

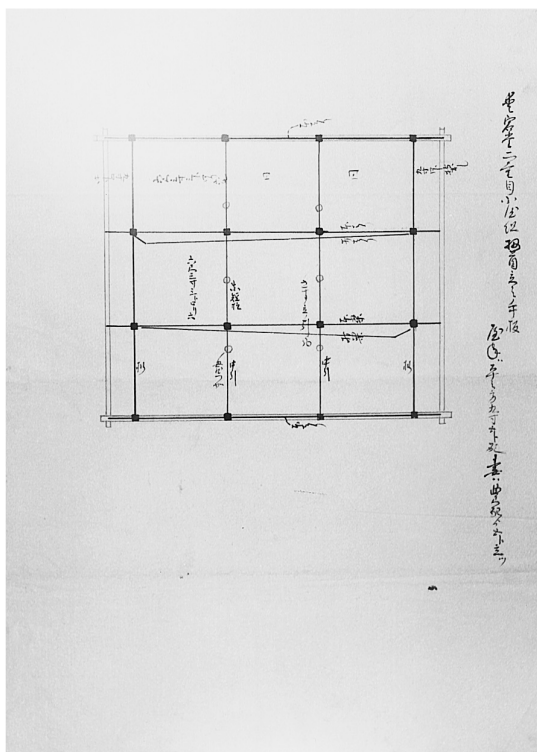


図 52 愛宕堂二重目小屋組扱首立之手板

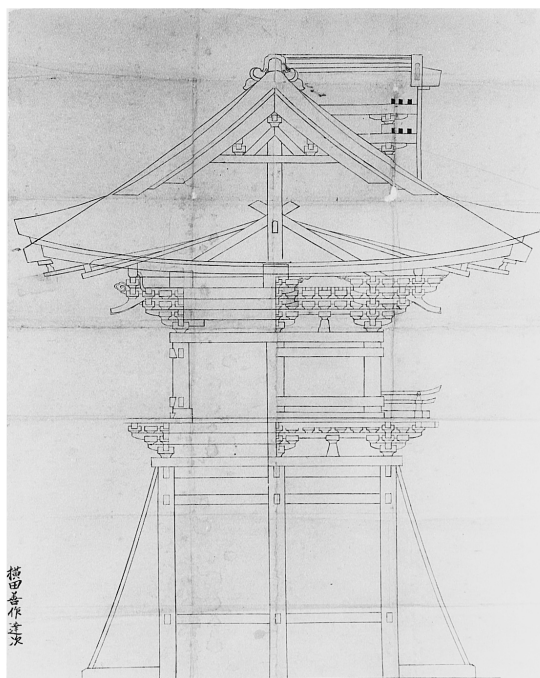


図 54 [鐘楼立断面図]

【満福寺鐘楼（万延2・1861年）】

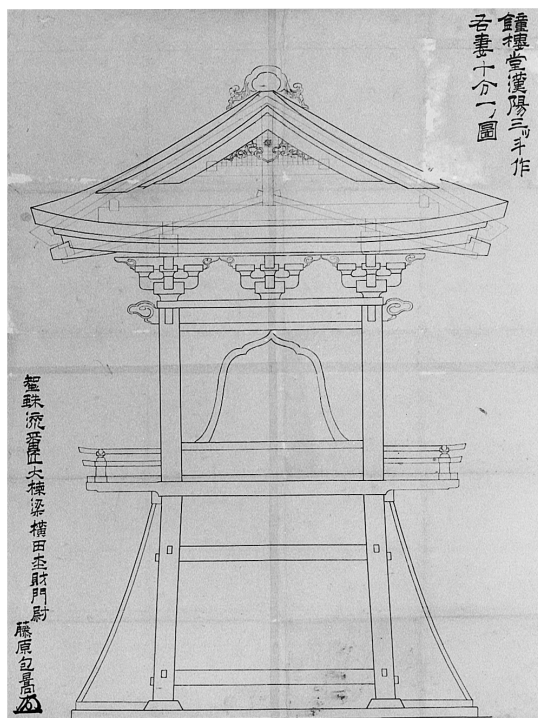


図 53 鐘楼堂漢陽三ツ斗作右妻十分一ノ図

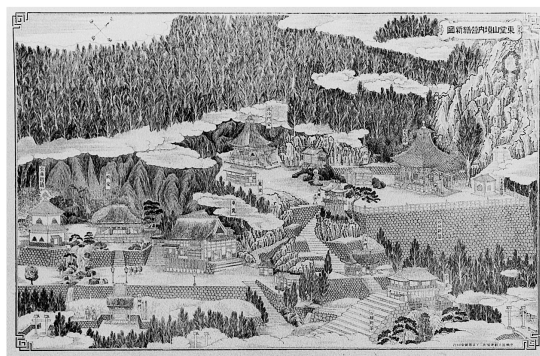


図 55 東堂山境内宮繕新図

【満福寺二王門（計画案）】

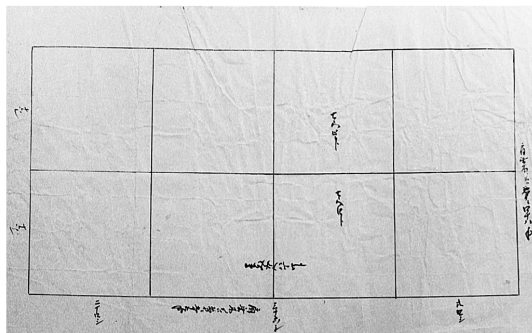


図 56 [図面（不詳、未完成）]

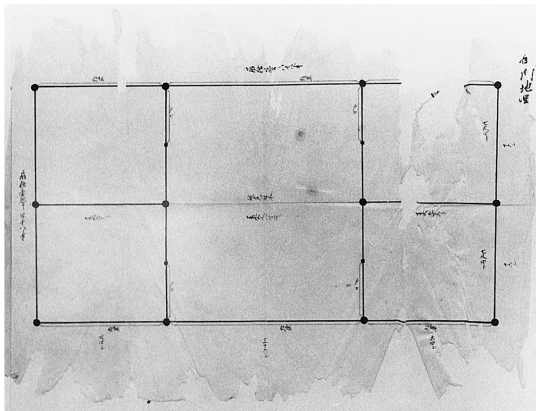


図57 御門地図

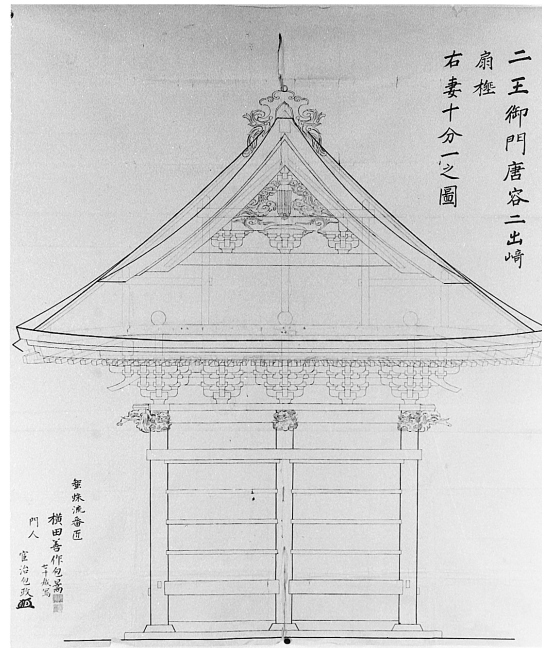


図60 二王御門唐容二出崎扇極
右妻十分一之図

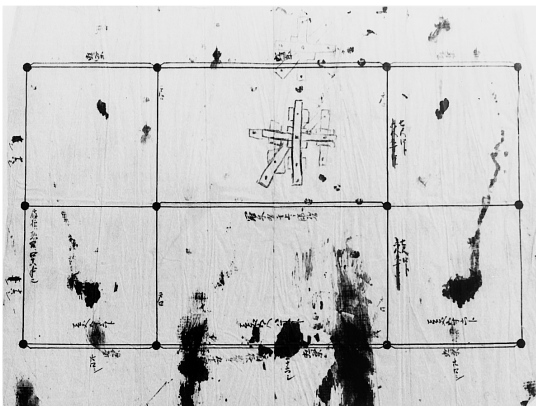


図58 [二王門平面図]

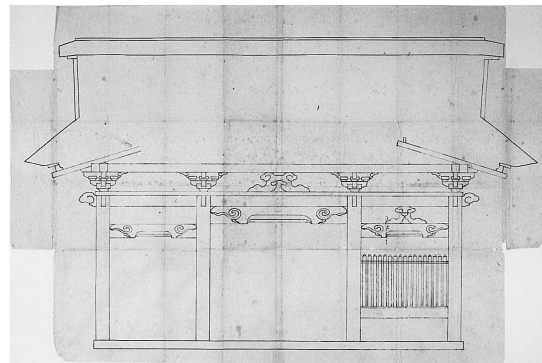


図61 [山門立断面図]

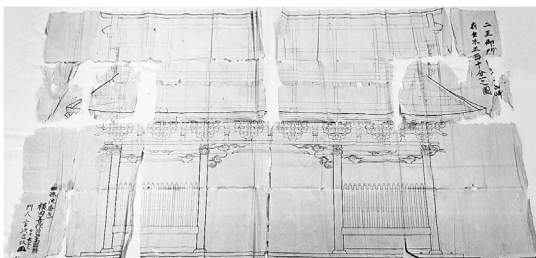


図59 二王門唐容二出崎扇垂木正図十分一

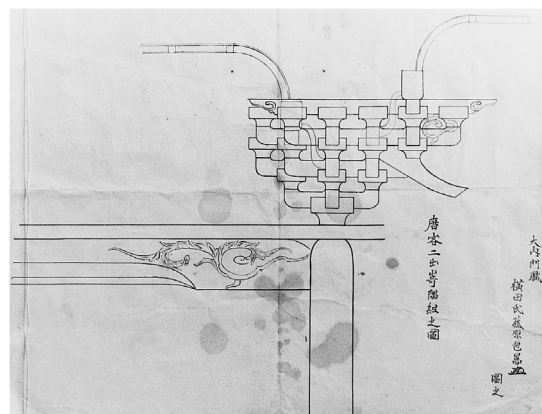


図62 唐容二出崎隅組之図

【大日寺本堂（文久元・1861年）】

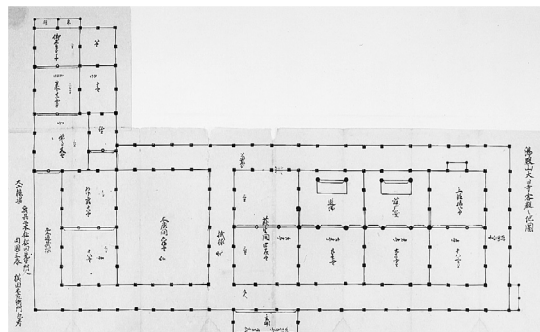


図 63 湯殿山大日寺客殿之地図

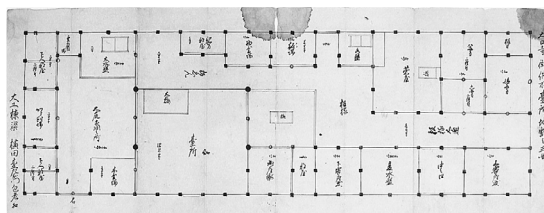


図 67 大日寺御供所臺所地割之正図

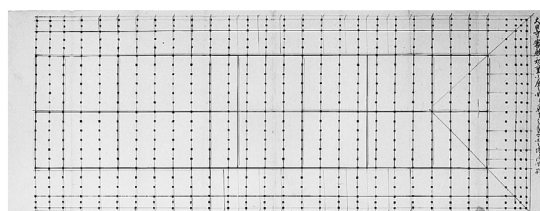


図 64 大日寺客殿初重小屋之図

但し梁下むね木等之場も此図二頭ス

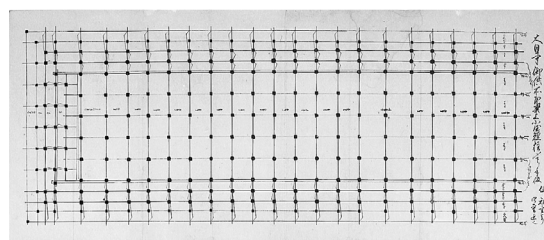


図 68 大日寺御供所本梁上小屋短柱四

下り手板但し初重より四重迄也

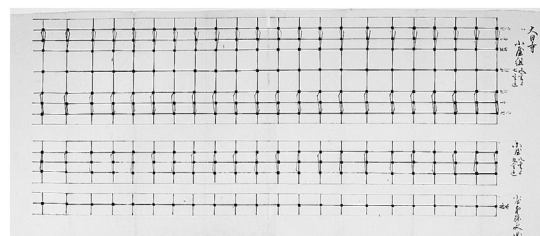


図 65 大日寺小屋組五重ヨリ七重迄
小屋八重ヨリ九重迄 小屋本棟受ノ図

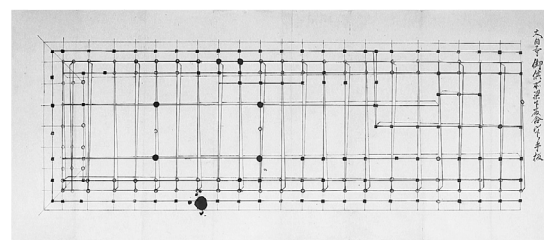


図 69 大日寺御供所梁下取合下り手板

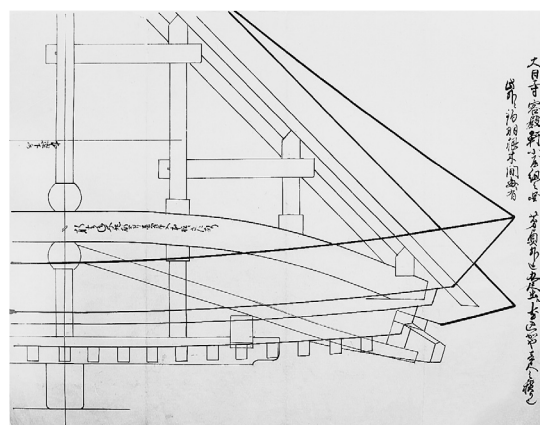


図 66 大日寺客殿軒小屋組之図

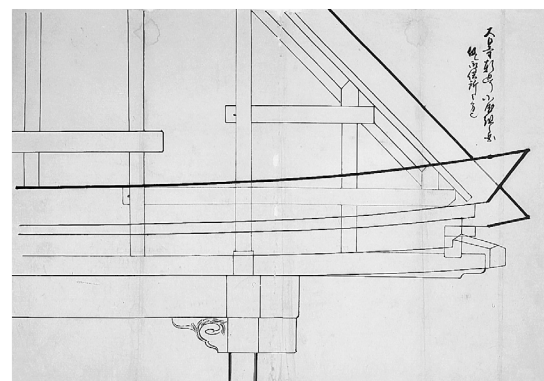


図 70 大日寺軒廻り小屋組之図

但し御供所之方也

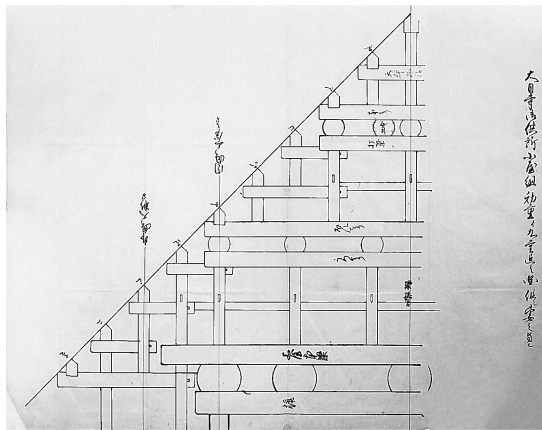


図71 大日寺御供所小屋組
初重ヨリ九重迄之図但し妻之方也

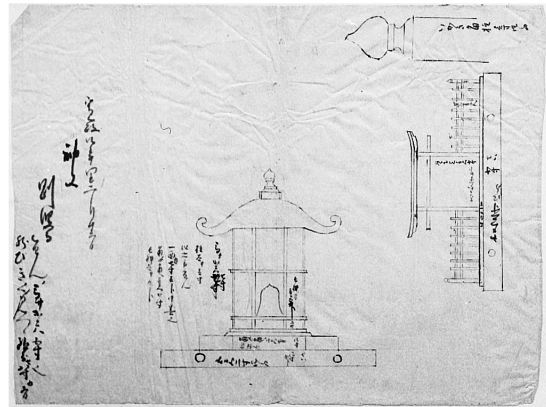


図74 神又剛叟寺〔神輿〕〔寛政4年〕

【小倉観音堂（建築年代不明）】

【剛叟寺本堂（明治22・1889年）】

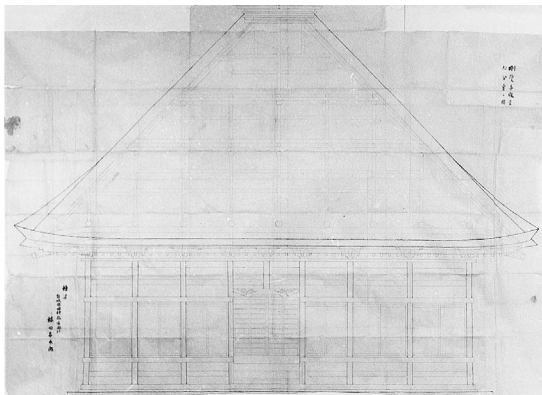


図72 剛叟寺殿堂拾分壹之図

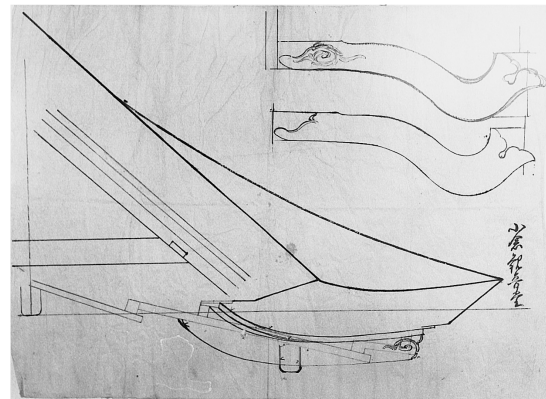


図75 小倉観音堂

【建物名不明】

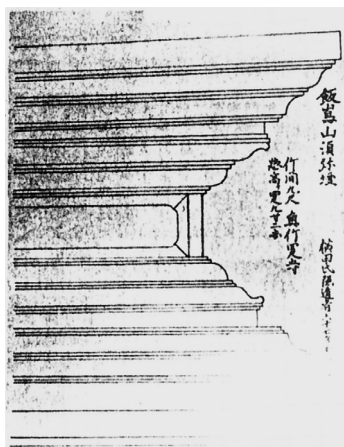


図73 飯島山須弥壇

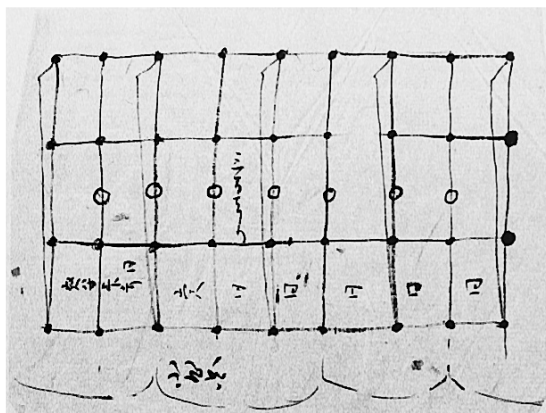


図76 小屋図

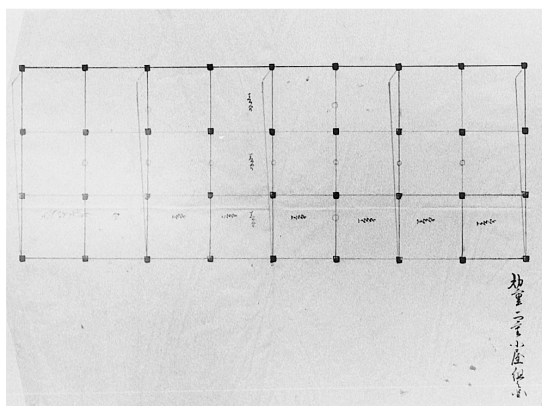


図 77 初重二重小屋組之図

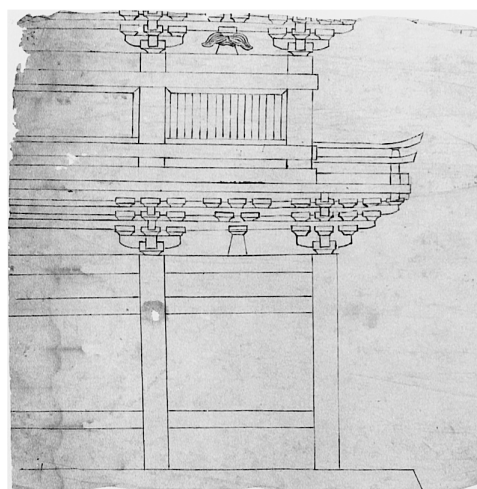


図 80 [楼門部分立面図]

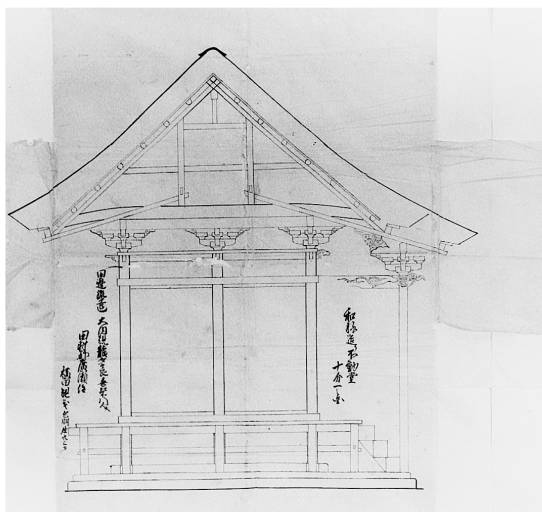


図 78 和様造不動堂十分一之図

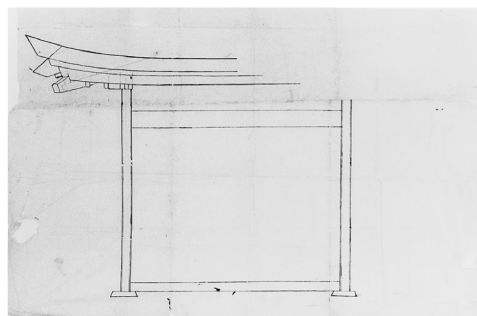


図 81 [立面図下書き]

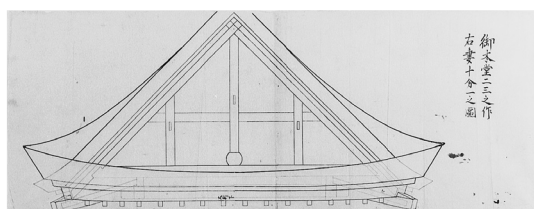


図 82 御本堂二三之作右妻十分一之図

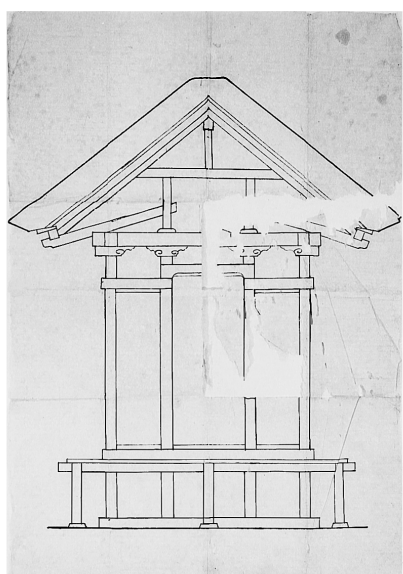


図 79 [仏堂立断面図]

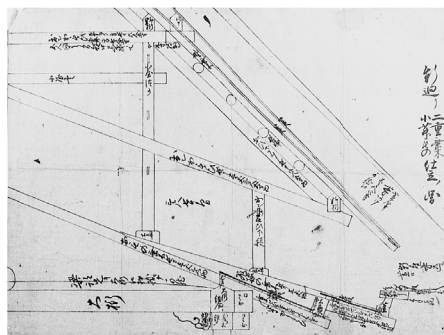


図 83 軒廻り二重垂木小節もの仕立ノ図

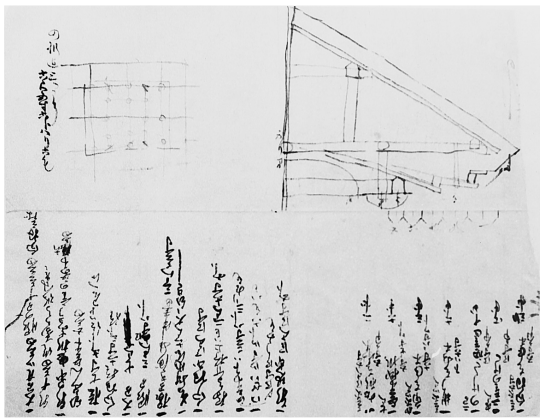


図 84 [軒廻り小屋組断面図]

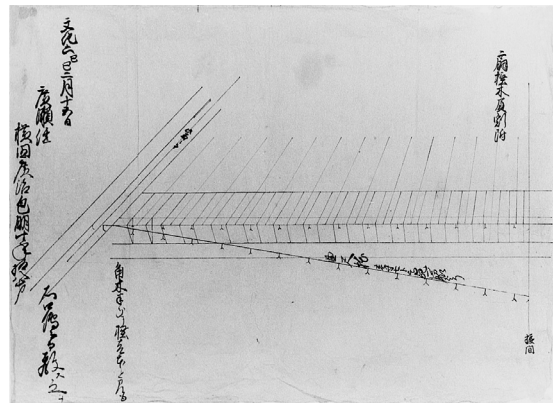


図 87 扇極木負割附

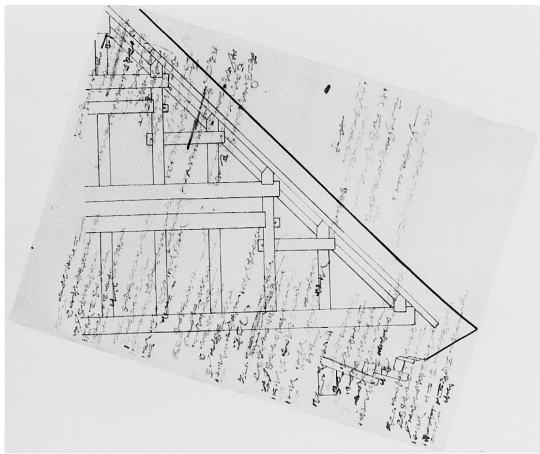


図 85 [軒廻り断面図]

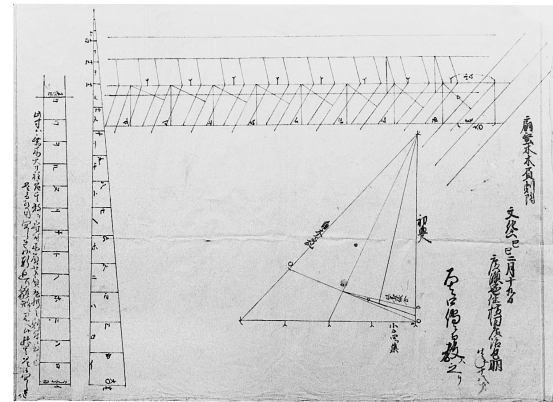


図 88 扇垂木木負割附

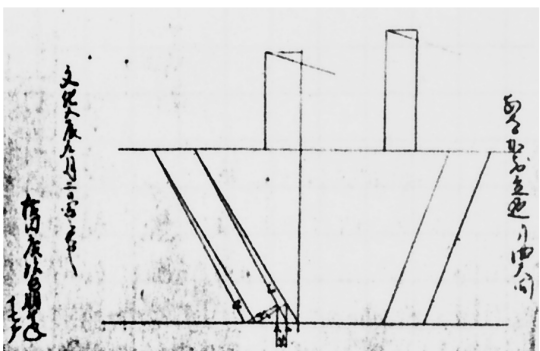


図 86 あさかお立返り四尺間

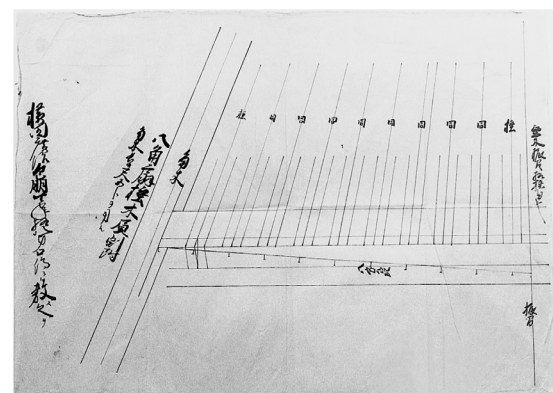


図 89 八角扇極木負割附

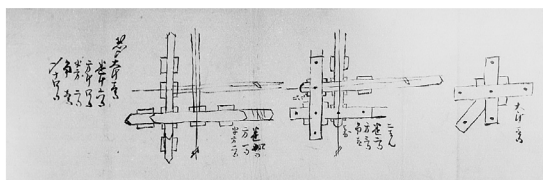


図 90 [出組組物図]

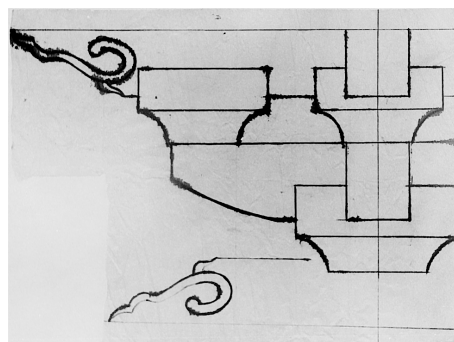


図 94 [出三ツ斗詳細図]

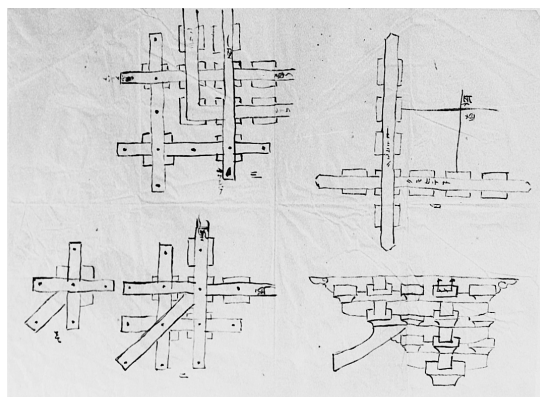


図 91 [二手先組物図]

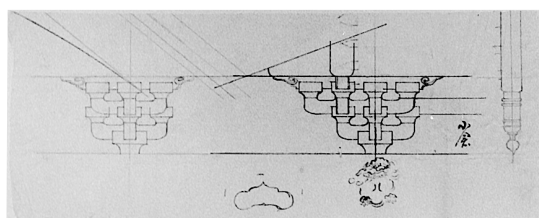


図 95 (出組組物図)

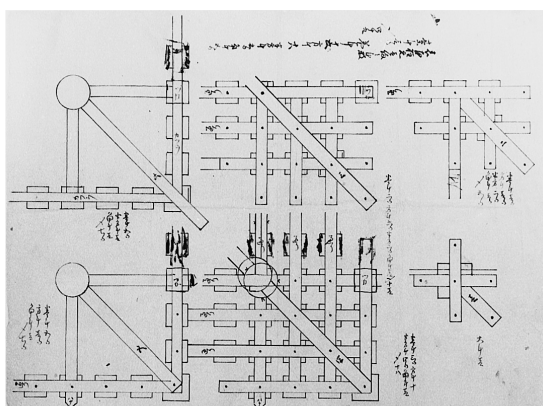


図 92 [三手先組物図]

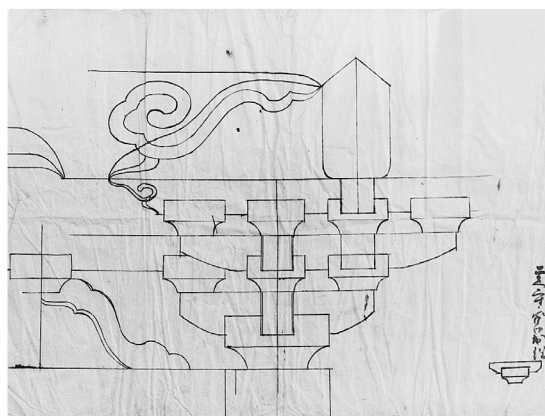


図 96 [出組断面図]

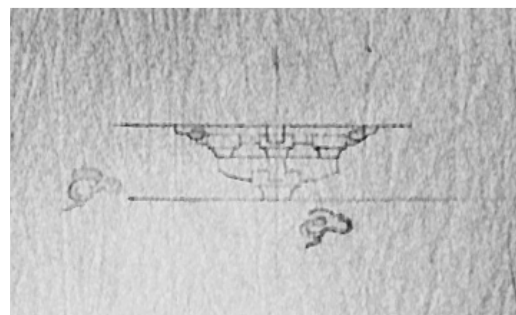


図 93 [出三ツ斗立面図]

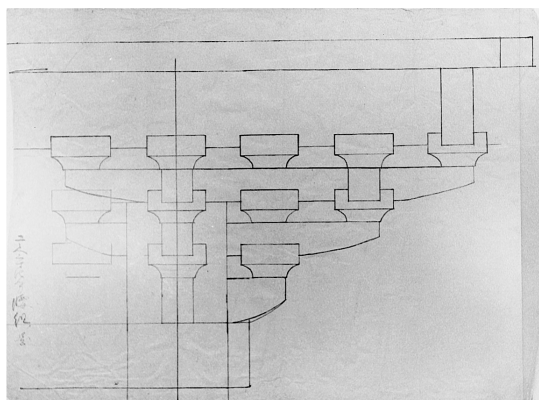


図 97 二尺二寸四分腰組之図

【現存遺構平面図】

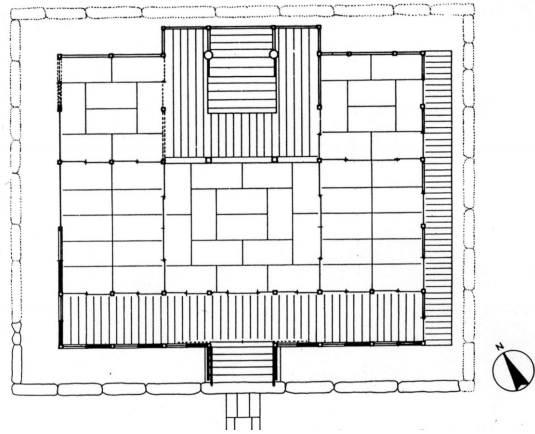


図98 宝蔵寺本堂平面図

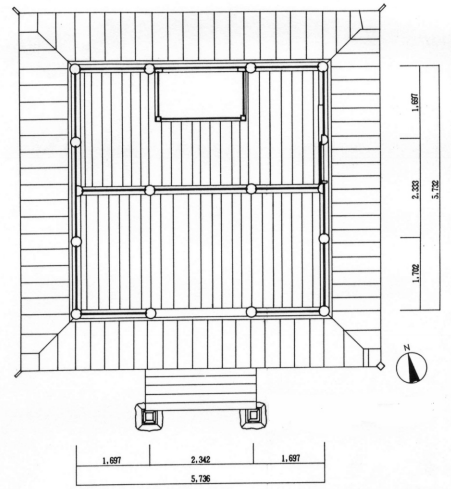


図101 浮金観音堂平面図

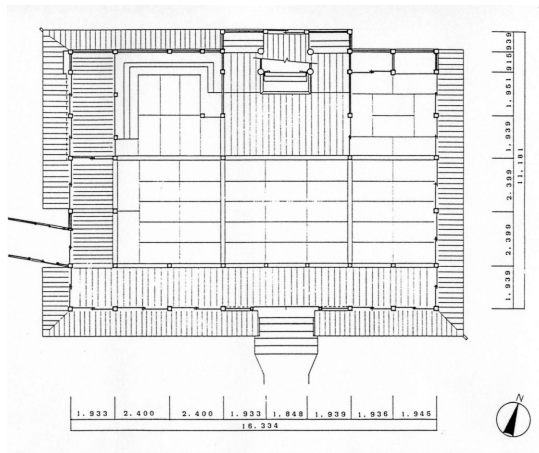


図99 法伝寺本堂平面図

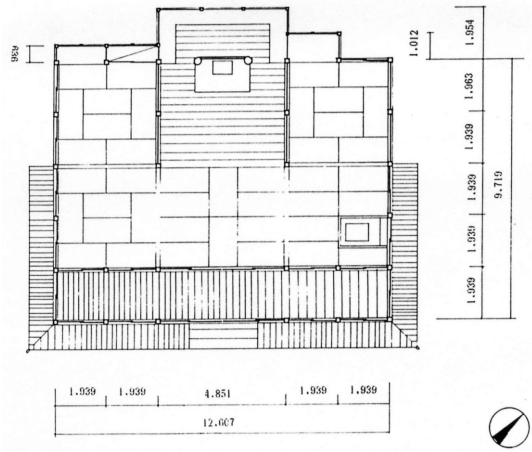


図102 地藏院本堂平面図

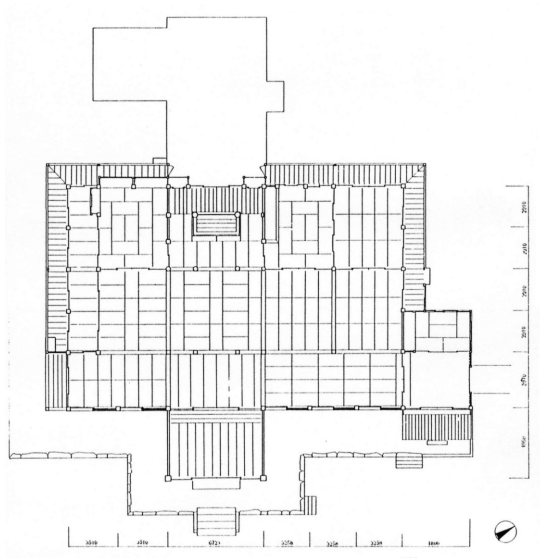


図100 龍穩院本堂平面図

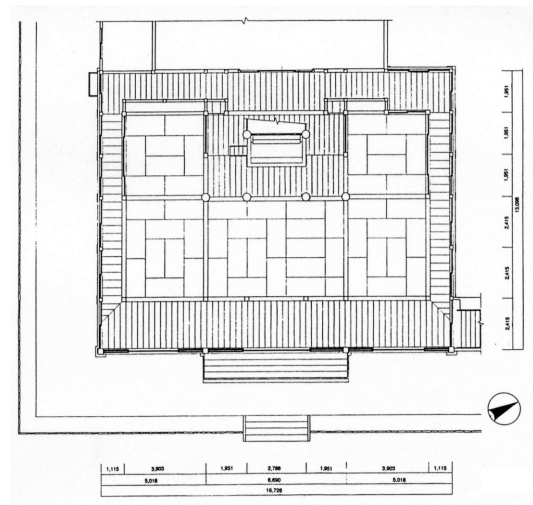


図103 昌源寺本堂平面図

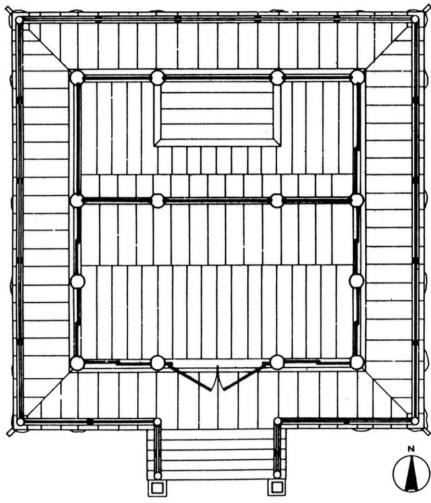


図 104 飯豊愛宕堂平面図

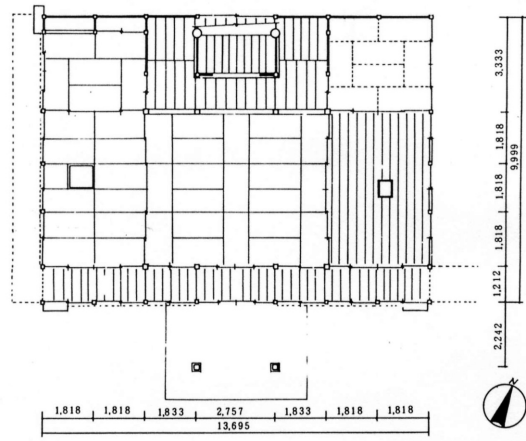


図 107 剛叟寺本堂平面図

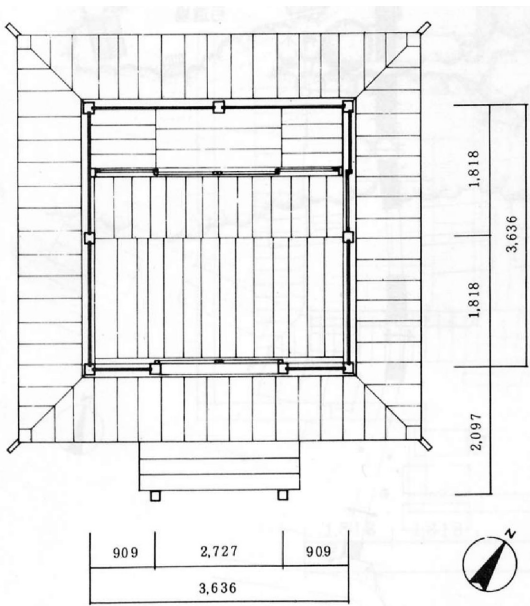


図 105 蛇内観音堂平面図

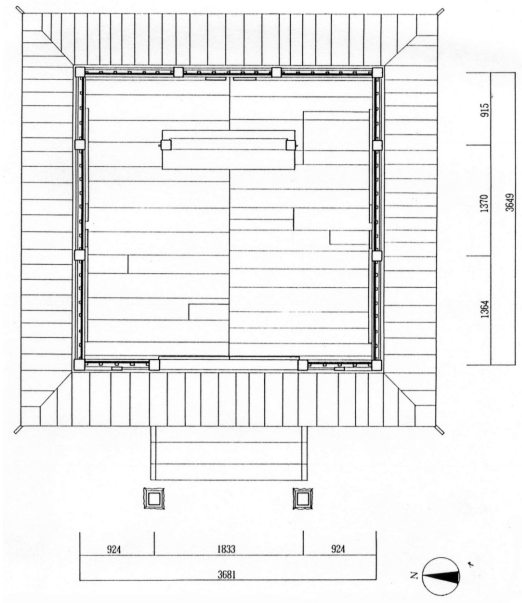


図 108 五斗蒔延命地藏堂平面図

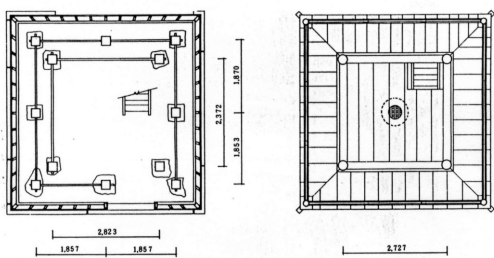


図 106 満福寺鐘楼平面図

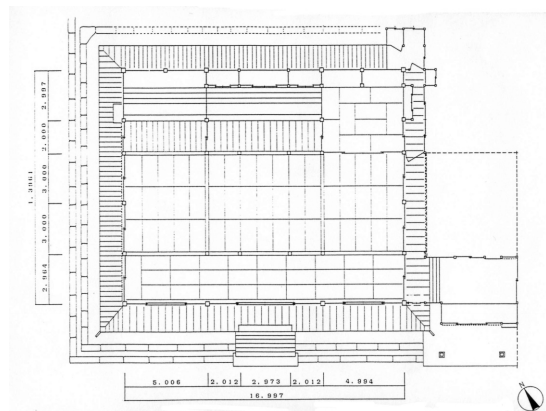


図 109 普賢寺本堂平面図